



令和2(2020)年度

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業  
「次世代研究者育成プログラム」

# 未来を拓く地方協奏プラットフォーム 成果報告書

---

令和3(2021)年3月



科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業  
「次世代研究者育成プログラム」

# 未来を拓く 地方協奏プラットフォーム

令和2(2020)年度

## 成果報告書

令和3(2021)年3月

## 目次

1. はじめに.....	1
2. 「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の概要 .....	2
2-1. 概要.....	2
2-2. 連携機関 .....	3
2-3. 推進体制 .....	5
2-3-1. 令和2(2020)年度の推進体制 .....	6
2-3-2. HIRAKU 運営協議会事務局.....	7
2-3-3. HIRAKU 運営協議会開催実績.....	7
2-4. 年次計画(数値目標) .....	9
2-4-1. コンソーシアム教員の採用人数.....	9
2-4-2. 長期インターンシップ生の派遣人数.....	9
3. テニユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム .....	10
3-1. コンソーシアム教員の公募・審査・採用実績 .....	10
3-2. コンソーシアム教員の着任状況 .....	14
3-3. コンソーシアム教員の育成 .....	20
3-3-1. 自立的な研究環境確保等について .....	20
3-3-2. コンソーシアム教員研修について.....	20
3-3-3. メンター制度など .....	21
3-4. コンソーシアム教員の評価 .....	22
4. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム.....	24
4-1. 長期インターンシップ生の募集.....	24
第12・13期(令和2(2020)年度) .....	24
4-2. 長期インターンシップの派遣実績 .....	24
令和2(2020)年度第12期派遣者 .....	24
5. 成果報告会 .....	25
5-1. 第11回成果報告会 .....	25
5-2. 第12回成果報告会 .....	26
6. DCやPDが積極的に関与する取組 .....	28
6-1. 未来博士3分間コンペティション2020.....	28
6-2. 第5回課題提案型ワークショップ .....	31
6-3. ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム.....	33

7. コンソーシアム人材セミナー .....	34
8. 若手研究人材の意識啓発を促す取組.....	46
8-1. ウェブサイト .....	46
8-2. 学生むけ小冊子 HIRAKU.....	48
8-3. 学生むけ小冊子 HAKUSHI.....	53
9. 若手研究人材のキャリアスタート支援 .....	55
9-1. 若手研究人材ポートフォリオ HIRAKU-PF.....	55
9-2. 博士人材キャリア相談室 .....	63
10. 代表機関および共同実施機関独自の取組.....	64
10-1. 広島大学独自の取組.....	64
10-1-1. 広島大学特別研究員 成果報告会.....	64
10-1-2. HIRAKU 実践プログラム .....	65
10-1-3. 研究者等紹介 .....	67
10-1-4. 4年手帳.....	68
10-2. 山口大学独自の取組.....	69
10-2-1. 実施体制 .....	69
10-2-2. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム .....	69
10-2-3. テニユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム .....	72
10-3. 徳島大学独自の取組.....	73
10-3-1. 実施体制 .....	73
10-3-2. 若手研究者の自立・流動促進プログラム .....	73
10-3-3. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム .....	74
11. 外部評価.....	77
11-1. 外部評価委員会 .....	77
11-1-1. 第5回外部評価委員会 .....	77



## 1. はじめに

本報告書は、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業（次世代研究者育成プログラム）」に採択された「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」（HIRAKU）の、開始後 7 年目である令和 2（2020）年度の活動とその成果をまとめたものです。

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」は、広島大学が代表機関、山口大学と徳島大学が共同実施機関として、また、本書で述べるように、多くの連携機関の協力を得て、推進しています。博士課程後期学生を含む若手研究人材の育成を目的とするプラットフォーム（HIRAKU-PF）を共同で構築し、自己啓発や専門的能力開発の環境をつくり、また、長期インターンシップや共同研究等の機会を増やしています。さらに、テニュアトラック研究者をコンソーシアムとして共同で公募・選考し、より多くの優秀な若手研究人材を国内外から集め、多様な研究環境と雇用形態を提供しています。また、優秀な女性研究者に活躍の場を提供する取組も進めています。

若手研究人材の養成やキャリアスタート支援は、一つの大学だけでできるものではありません。社会全体の問題として、多くの機関が協力して行うものです。本コンソーシアムはこの考え方を基調として、問題意識を共有している大学や企業等が、組織の壁を越えて、連携し実施しています。HIRAKU では、代表及び共同実施機関の 3 大学だけでなく、多くの連携大学に所属する大学院生にも、長期インターンシップに派遣する機会を提供しています。

広島大学では、科学技術人材育成費補助金「イノベーション創出若手研究人材養成」に採択された「地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画」（平成 21（2009）～平成 25（2013）年度）の取組により、若手研究人材を社会に輩出する、ということ意識して実施するようになりました。また、科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速」に採択された「広大システム改革による女性研究者活躍促進」（平成 22（2010）～平成 26（2014）年度）の取組により、女性限定公募と女性研究者支援を実施してきました。「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」は、これら二つの取組を実施してきた経験と実績をふまえて、事業全体を設計し、実行しています。

本事業は、平成 26（2014）～令和 3（2021）年度の 8 年間の予定で実施しています。平成 28（2016）年度に中間評価を受けました。すべての項目で所期の計画どおりに取組を進めている、と認められ、また、大きな波及効果があることも認めていただきました。この事業は、平成 30（2018）年度で補助期間が終了しております。持続可能な、そして、より効果的な影響を及ぼしていくように、これまでの取組内容と成果を検証しつつ、事業を継続しています。

令和 2（2020）年度は、日本における新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策の運営面の欠陥が明らかとなったことから、日本社会が古い非効率的なシステムのまま変わっていなかったことが、全世界に知れ渡った年、となりました。その感染拡大防止の観点から、国内外での活動を制限せざるをえない面が多々ありましたが、そのような古い日本社会を変えるために、博士人材の社会での活躍が強く期待されるようになった年でもありました。

ここに、HIRAKU 事業の開始 7 年目の活動と実績をまとめております。本事業の活動状況をご覧いただき、ご忌憚のないご意見をいただきたいと考えております。これからも若手研究人材の育成と多様なキャリアパスの構築にご支援いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

令和 3（2021）年 3 月 16 日

広島大学 学長特命補佐（研究人材育成担当）

相田 美砂子

## 2. 「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の概要

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」は、平成 26 (2014) 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業 (次世代研究者育成プログラム)」に申請し、採択された。

本報告書は、開始後 7 年目となった令和 2 (2020) 年度の成果をまとめたものである。

### 2-1. 概要

コンソーシアムの名称： 未来を拓く地方協奏プラットフォーム

代表機関名： 国立大学法人広島大学

総括責任者名： 広島大学長

共同実施機関名： 国立大学法人山口大学、国立大学法人徳島大学

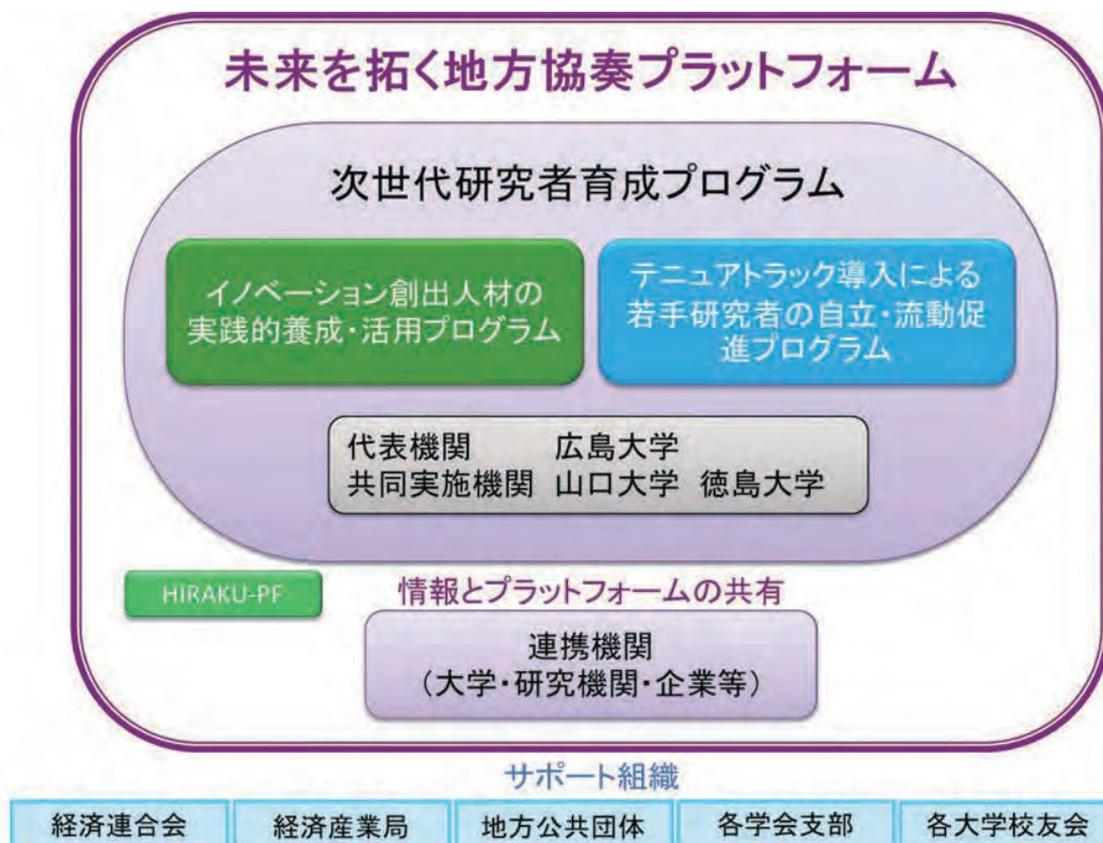
実施予定期間： 平成 26 (2014) 年度～令和 3 (2021) 年度

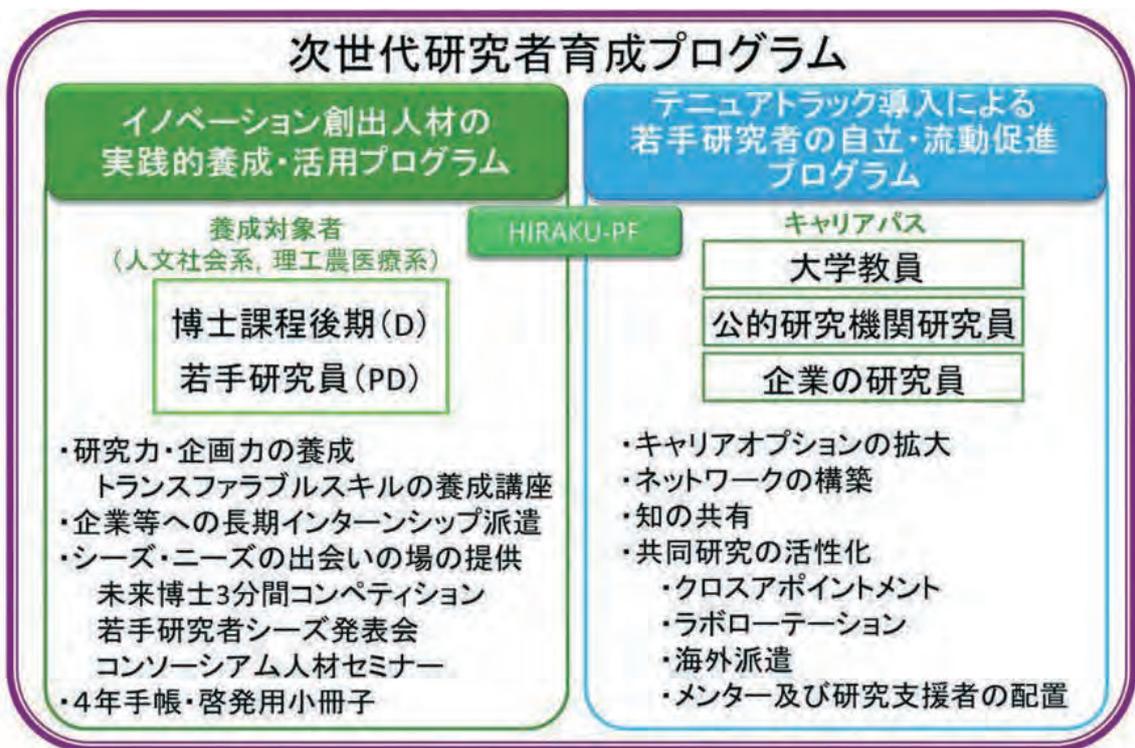
取組の概要：

中国・四国地方を中心とする西日本の大学等を中心としたコンソーシアムを構築し、共同でテニュアトラック研究者を公募，選考する。より多くの優秀な若手研究人材を国内外から集める。多様な雇用・流動形態（クロスアポイントメント，ラボローテーション等）の導入により，彼らが異なる知と交わり，ネットワークを構築できるよう支援する。女性枠を設定し，女性の活躍促進につなげる。

博士課程後期学生を含む若手研究人材が，地域や国際社会を変革するイノベーターとして自立できるよう，彼らの実践的な養成・活用を可能とするプラットフォームを共同で構築する。トランスファラブルスキル養成に必要なリソースの共有を図り，シーズ・ニーズのマッチングにより，インターンシップ，就職，共同研究等の機会を増やす。

若手研究人材の養成・活用を通じて，コンソーシアム内外の知の循環を加速させ，地域全体の社会的課題の解決やイノベーション創出を図り，地方創生につなげる。





博士人材のキャリアスタートを  
可能とするシステムを構築

深い専門性と広い視野をもつ優秀  
な人材を地方に確保し、さらに育成

## 2-2. 連携機関

令和3（2021）年2月末現在の連携機関は次のとおりであり、計64機関（50音順）である。

### 国立大学法人

1	愛媛大学
2	岡山大学
3	香川大学
4	岐阜大学
5	高知大学
6	島根大学
7	鳥取大学
8	鳴門教育大学
9	国立遺伝学研究所／ 総合研究大学院大学生命科学研究科 遺伝学専攻

### 公私立大学法人

1	県立広島大学
2	高知工科大学
3	広島市立大学
4	広島国際大学
5	立命館大学

### 行政

1	広島県
---	-----

公的研究機関

1	国立研究開発法人産業技術総合研究所四国センター
2	国立研究開発法人産業技術総合研究所中国センター
3	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構西日本農業研究センター
4	独立行政法人酒類総合研究所

公的団体

1	公益財団法人くれ産業振興センター
2	一般社団法人中国経済連合会
3	一般社団法人中国地域ニュービジネス協議会
4	地方独立行政法人山口県産業技術センター

企業

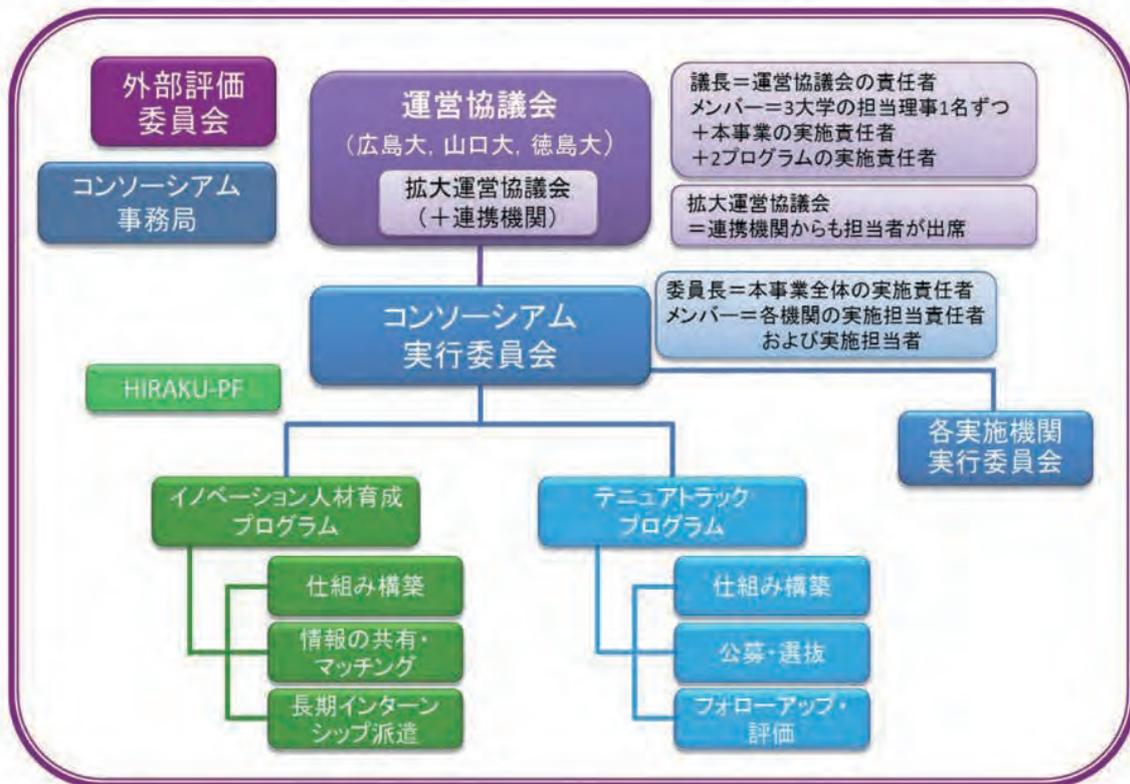
1	株式会社あじかん
2	株式会社アビー
3	EYアドバイザリー・アンド・コンサルティング株式会社
4	大塚製薬株式会社
5	倉敷紡績株式会社
6	株式会社計測リサーチコンサルタント
7	株式会社サタケ
8	三新化学工業株式会社
9	JFEスチール株式会社
10	株式会社ジェイ・エム・エス
11	株式会社ジェーイーエル
12	シュプリンガー・ネイチャー
13	昭和電工株式会社
14	中外テクノス株式会社
15	中国電力株式会社エネルギー総合研究所
16	帝人ナカシマメディカル株式会社
17	東ソー株式会社
18	株式会社東洋高圧
19	株式会社トクヤマ 徳山製造所
20	戸田工業株式会社
21	西川ゴム工業株式会社
22	日本アイ・ビー・エム株式会社
23	株式会社日本製鋼所 広島製作所
24	日本製鉄株式会社 技術開発本部
25	日本ハム株式会社 中央研究所
26	株式会社野村総合研究所
27	株式会社フェニックスバイオ
28	富士通株式会社 西日本営業本部 関西文教統括営業部

29	フマキラー株式会社
30	ベネッセ教育総合研究所
31	株式会社ペンタスネット
32	マツダ株式会社
33	マナック株式会社
34	株式会社MICOTOテクノロジー
35	三菱ケミカル株式会社 大竹研究所
36	三菱重工株式会社 広島製作所
37	メドエルジャパン株式会社
38	矢崎総業株式会社 技術研究所
39	株式会社リバナス
40	他 1 社

海外機関

1	Vitae (イギリス)
---	--------------

2-3. 推進体制



運営協議会は、実施機関である広島大学、山口大学、徳島大学の各担当理事、本事業の実施責任者、およびプログラム責任者で構成する。また、運営協議会のサブ組織として拡大運営協議会を置く。拡大運営協議会は、運営協議会に連携機関の実施責任者を加えたメンバーで構成する。

運営協議会において、コンソーシアム全体および各機関の意思疎通を図る。運営協議会の下にコンソーシアム実行委員会を設置し、コンソーシアムとしての活動を進める。各実施機関においては、それぞれ実行委員会等を設置し、活動を進める。

運営協議会、拡大運営協議会、コンソーシアム実行委員会を必要に応じ開催し、各機関の事情をふまえながらコンソーシアム全体としての方針を決定し、実行する。

## 2-3-1. 令和2（2020）年度の推進体制

### (1) コンソーシアムとしての責任者

総括責任者：	広島大学 学長	越智 光夫
実施責任者：	広島大学 学長特命補佐（研究人材育成担当）	相田 美砂子
運営協議会責任者：	広島大学 理事・副学長（社会産学連携担当）	楯 真一
	（担当事務：学術・社会連携室学術・社会連携部 企画GL 長谷川 宰）	
運営協議会メンバー：	山口大学 理事・副学長（学術研究担当）	上西 研
	徳島大学 理事・副学長（研究担当）	佐々木 卓也
	広島大学 学長特命補佐（研究人材育成担当）	相田 美砂子
	広島大学 グローバルキャリアデザインセンター 副センター長 教授	三須 敏幸

### コンソーシアム実行委員会：

「テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム」責任者	広島大学 学長特命補佐（研究人材育成担当）	相田 美砂子
「イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム」責任者	広島大学 グローバルキャリアデザインセンター 副センター長 教授	三須 敏幸

### (2) 各実施機関の責任者

#### ◆広島大学

「テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム」	広島大学 理事・副学長（社会産学連携担当）	楯 真一
	（担当事務：学術・社会連携室学術・社会連携部 企画GL 長谷川 宰）	

「イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム」

広島大学 グローバルキャリアデザインセンター長	吉村 幸則
（担当事務：教育室教育部キャリア支援GL 新田 雅浩）	

#### ◆山口大学

山口大学 理事・副学長（学術研究担当）	上西 研
（担当事務：学術研究部次長 松本 勝典）	

#### ◆徳島大学

徳島大学 理事・副学長（研究担当）	佐々木 卓也
（担当事務：研究・産学連携部 常三島研究・ 産学支援課長 小西 浩司）	

## 2-3-2. HIRAKU 運営協議会事務局

◆令和2（2020）年度

### 専任職員

推進員（事務統括）	山本 正和
事務職員（教育室）	梶田 真理（キャリア支援G主任）
コーディネーター	宮地 壽
コーディネーター	田中 圭子
推進員	岡崎 亜紀子
推進員	福見 朋子
事業担当システム開発	坂宗 和明

### 協力職員

学術・社会連携室	長谷川 宰（企画GL）
	古屋 紫織（企画G主査）

## 2-3-3. HIRAKU 運営協議会開催実績

### (1) 第33回 HIRAKU 運営協議会

【日時】 令和2（2020）年7月9日（木）16：15～16：40

【場所】 共同実施3大学のオンラインTV会議

山口大学：常盤キャンパス 先端研究棟 3F セミナー室

徳島大学：常三島キャンパス 産官学連携プラザ 3F 日亜ホール

広島大学：東広島キャンパス 本部棟 5F1 会議室

【出席者】（山口大学）上西理事，（徳島大学）佐々木理事

（広島大学）楯理事，相田特任教授，三須教授

吉村グローバルキャリアデザインセンター長，長谷川教育部長，

原学術・社会連携部長 他23名（合計31名）

### 【議題と報告事項】

- ・令和2年度の実施計画の変更について
- ・コンソーシアム教員の年度評価について
- ・コンソーシアム教員の中間評価について
- ・コンソーシアム教員の最終評価について
- ・第13期（2020年度）第14・15期（2021年度）コンソーシアム教員公募について
- ・2014-2020年度コンソーシアム教員の採用状況について
- ・未来博士3分間コンペティション2020について ほか

### (2) 第34回 HIRAKU 運営協議会

【日時】 令和3（2021）年3月3日（水）16：00～17：16

【場所】 Zoom オンライン会議

【出席者】（山口大学）上西理事，（徳島大学）佐々木理事

（広島大学）相田特任教授（兼 楯理事代理），三須教授，原 学術・社会連携部長

（連携機関）岐阜大学 吉田特任教授，川瀬助教，マナック株式会社 黄主任，産業

技術総合研究所中国センター 須田室長，中国経済連合会 山下部長

他24名（合計34名）

【議題と報告事項】

- ・令和3（2021）年度の実施計画について
- ・令和4（2022）年度以降のHIRAKU事業について
- ・長期インターンシップの募集要項について
- ・「未来博士3分間コンペティション2021」の企画及び「未来博士3分間コンペティション2020」の開催報告について
- ・2020年度長期インターンシップ派遣状況について
- ・第14・15期（2021年度）コンソーシアム教員公募について
- ・コンソーシアム教員の年度評価について
- ・コンソーシアム教員の中間評価について
- ・コンソーシアム教員の最終評価について
- ・2014-2020年度コンソーシアム教員の採用状況について
- ・令和元（2019）年度成果報告書の作成について
- ・「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」について      ほか

## 2-4. 年次計画（数値目標）

### 2-4-1. コンソーシアム教員の採用人数

	平成 26 (2014) 年度	平成 27 (2015) 年度	平成 28 (2016) 年度	平成 29 (2017) 年度	平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度
春着任		第 2 期	第 4 期	第 6 期	第 8 期	第 10 期	第 12 期	第 14 期
秋着任	第 1 期 (冬)	第 3 期	第 5 期	第 7 期	第 9 期	第 11 期	第 13 期	第 15 期
広島大学	4	5	6	6	6	6	6	6
山口大学	0	2	1	1	1	1	1	1
徳島大学	0	1	1	1	1	1	1	1
計	4	8	8	8	8	8	8	8

### 2-4-2. 長期インターンシップ生の派遣人数

	平成 26 (2014) 年度	平成 27 (2015) 年度	平成 28 (2016) 年度	平成 29 (2017) 年度	平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度
前期		第 2 期	第 4 期	第 6 期	第 8 期	第 10 期	第 12 期	第 14 期
後期	第 1 期	第 3 期	第 5 期	第 7 期	第 9 期	第 11 期	第 13 期	第 15 期
広島大学	4	14	14	14	14	14	14	14
山口大学	0	2	2	2	2	2	2	2
徳島大学	2	2	2	2	2	2	2	2
計	6	18	18	18	18	18	18	18

### 3. テニユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム

#### 3-1. コンソーシアム教員の公募・審査・採用実績

	平成 26(2014)年度	平成 27(2015)年度		平成 28(2016)年度	
春着任		第 2 期		第 4 期	
秋着任	第 1 期(冬)		第 3 期		第 5 期
広島大学	4	2(2)	3(1)	2(2)	4(4)
山口大学	0	2	0	1(1)	0
徳島大学	0	0	1	1	0
公募開始	平成 26(2014)年 11 月 25 日	平成 26(2014)年 12 月 26 日	平成 27(2015)年 4 月 28 日	平成 27(2015)年 10 月 13 日	平成 28(2016)年 4 月 28 日
公募締切	平成 26(2014)年 12 月 22 日	平成 27(2015)年 1 月 29 日	平成 27(2015)年 6 月 25 日	平成 27(2015)年 12 月 10 日	平成 28(2016)年 6 月 30 日
コンソーシアム内 公開ヒアリング	平成 27(2015)年 1 月 23 日	平成 27(2015)年 3 月 5 日	平成 27(2015)年 8 月 26 日	平成 28(2016)年 2 月 29 日	平成 28(2016)年 8 月 26 日
採用者計	4[2]	4[2]	4[1]	4[4]	4[4]
	平成 29(2017)年度		平成 30(2018)年度		令和元 (2019)年度
春着任	第 6 期		第 8 期		第 10 期
秋着任		第 7 期		第 9 期	
広島大学	2(1)	4(2)	3(2)	3(2)	3(1)
山口大学	0	1	0	1	0
徳島大学	1	0	0	1	0
公募開始	平成 28(2016)年 10 月 11 日	平成 29(2017)年 3 月 10 日	平成 29(2017)年 9 月 1 日	平成 30(2018)年 2 月 2 日	平成 30(2018)年 8 月 2 日
公募締切	平成 28(2016)年 12 月 12 日	平成 29(2017)年 5 月 15 日	平成 29(2017)年 10 月 31 日	平成 30(2018)年 4 月 2 日	平成 30(2018)年 10 月 1 日
コンソーシアム内 公開ヒアリング	平成 29(2017)年 2 月 1 日	平成 29(2017)年 7 月 31 日	平成 29(2017)年 12 月 25 日	平成 30(2018)年 7 月 19 日	平成 30(2018)年 12 月 13 日
採用者計	3[1]	5[2]	3[2]	5[3]	3[1]
	令和元 (2019)年度	令和 2(2020)年度		令和 3(2021)年度	
春着任		第 12 期		第 14 期	
秋着任	第 11 期		第 13 期		第 15 期
広島大学	3(1)	4(1)	2(1)	5(2)	1(1)
山口大学	1	0	1	0	1
徳島大学	1	1(1)	0	1	0
公募開始	平成 31(2019)年 3 月 26 日	令和元 (2019)年 7 月 29 日以降随時		令和 2(2020)年 6 月 17 日以降随時	
公募締切	令和元(2019)年 5 月 27 日				
コンソーシアム内 公開ヒアリング					
採用者計	5[2]	5[3]	3[1]	6[2]予定	2[1]予定

(括弧内の数) →女性限定公募の件数 (内数)

[括弧内の数] →採用者の内の女性の数 [内数]

「次世代研究者」の公募について、本コンソーシアムでは、実施機関（広島大学、山口大学、徳島大学）がそれぞれ事業計画及び大学の計画に従った募集分野・人数・職階の候補を提案し、コンソーシアム運営協議会において決定した後、コンソーシアムで公募、選考を行い、実施機関で採用を行っている（本スキームで採用された教員を、以下コンソーシアム教員と記す。）公募の実施にあたっては、運営協議会での決定を受けて、コンソーシアム実行委員会と事務局が実施している。

コンソーシアム教員の公募にあたっては、実施機関側にはその職に求める条件として、テニユアトラック制での処遇を求めている。また、各実施機関内での早期定着、安定的で迅速な研究環境の確保、雇用後の流動性の担保などの観点から、各大学の制度に則った上で、いわゆる定員枠の教員と可能な限り同じ取扱いを求めている。そのため、広島大学では、コンソーシアム教員について、特殊な職階を設定せず、全て（通常の）助教として公募、採用している。

コンソーシアム教員となるものについては、以下の点を共通した要件としている。

- ・博士号を取得後 10 年以内(※1)又は同等程度の研究経歴(※2)を有し、かつ、40 歳未満(※3)である若手研究者（ただし、臨床研修を課せられた医学系分野においては 43 歳未満）
  - ※1 産前・産後休暇および育児休暇を取得した方は、その取得期間について 10 年を越えることが可能。
  - ※2 博士課程に標準年限以上在学し、所定の単位を修得した上、退学した（いわゆる「満期退学者」）で、退学後 10 年以内の研究者。
  - ※3 文部科学省の平成 26（2014）年度科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業による補助対象のため、雇用対策法施行規則第 1 条の 3 第 1 項第 3 号ニに該当するとして実施。
- ・英語によるコミュニケーション能力を有すること。
- ・日本語又は英語による学部・大学院生への授業及び研究指導ができること。
- ・科学技術イノベーションの実現に向けて積極的な研究活動を行う意志をもつこと。

これらの共通する要件に加え、各機関・分野で必要と認められた要件については、特有事項として加えている。

世界中から優秀かつ多様な人材を呼び込むために、国際公募とし、海外にも積極的に情報を展開している。また、公募要領上では、各機関で共通する内容については、可能な限り詳細な情報を掲示すると共に、各機関・分野の HP などを紹介し、外国在住者でも応募しやすくなるよう心がけた。さらに、国内外から寄せられた問い合わせに対しては、事務局で可能な限り迅速かつ丁寧な対応を行った。

従来の教員公募においては、各機関の人事担当部署及び各公募の責任教員が直接個別に対応しており、特に国際公募では大きな負担となっているが、これをコンソーシアムとして一括で対応し、Q&A として公開することで、応募者、事務双方の負担の軽減を図っている。

加えて、女性教員の少ない分野では、各実施機関に対して女性限定公募を行うよう積極的に働きかけており、その結果、第 13 期（令和 2（2020）年度後期採用）までの 56 件の公募のうち 25 件（再公募 2 件を含む）を女性限定公募として行った。また、女性限定公募でない場合も、公募要領上に女性研究者への支援を明記し、各機関の環境整備状況を明記することにより、女性への積極的な応募を促している。

第 13 期（令和 2（2020）年度後期採用）までに、外国籍教員の採用は 2 割近い 10 名となっており、全採用教員 52 名のうち半数以上にあたる 28 名の女性教員の採用につながった。研究分野のみでなく、ジェンダー、国籍などで多様なメンバーで構成されていると言える。

コンソーシアム教員は、各分野での優秀な教員候補であるのみならず、多様な人材に対してリーダーシップを発揮しなければならない将来の産学官のリーダー候補であるが、本コンソーシアムではその目的に沿った人材を公正なシステムに基づいて採用できている。

なお、応募にあたっては、以下の内容を共通して求めている。

- ① 履歴書
- ② 業績リスト※ 主要論文（5 編以内）のコピーを添付すること。
- ③ これまでの研究概要（A4 4 ページ以内、図表含む）
- ④ 本コンソーシアムにおける研究計画（A4 4 ページ以内、今後 5 年間の研究計画）

⑤ 科学技術イノベーションへの貢献に向けた抱負

⑥ 推薦者リスト（推薦者の所属、氏名、電話番号、電子メールアドレスを2名分記載）

公募情報は、JREC-IN Portal, コンソーシアム HP, 各大学 HP 等において英語及び日本語で公開し、公募期間は2か月以上となるように設定している。

応募者は、コンソーシアムが指定する日英共通様式（フォーム）に記入して提出する。世界中から幅広い人材の応募を得るために、応募書類はすべて電子メールで受け付けている。

選考にあたっては、コンソーシアム事務局における応募の取りまとめの後、各公募分野において一次選考を実施し、コンソーシアム運営協議会において審議（メール審議）を行う。その結果を各大学に通知し、各大学が採用手続きを進める形で行った。

従来の大学教員採用においては、他機関がその人材を知る機会が少なかったが、コンソーシアムとしての強みである複数大学での共同実施による協力体制のもと、優秀な若手研究人材を積極的に活かすための仕組みを構築できており、中国四国地域を活性化するための一歩となっていると言える。

#### ◆第12期・第13期公募（令和2（2020）年度前期）

- ・JREC-IN, コンソーシアム HP, 各大学 HP にて英語及び日本語で公募。各分野の国内学会 HP, メーリングリスト等においても周知。
- ・令和元（2019）年7月以降、随時公募開始、令和元（2019）年11月以降、随時運営協議会による審議（メール審議）。令和2（2020）年4月1日（水）採用。
- ・公募分野：創薬理論化学（徳島大学・女性限定公募）、化学工学・サステナブル工学・表面科学・材料科学（広島大学・女性限定公募）、放射線生物学・放射線防護学（広島大学）、家禽生理学（広島大学）、流域水資源安全保障学（広島大学）
- ・5分野合計で26名の応募を得た（うち女性12名）。

#### ◆第12期・第13期公募（令和2（2020）年度後期）

- ・JREC-IN, コンソーシアム HP, 各大学 HP にて英語及び日本語で公募。各分野の国内学会 HP, メーリングリスト等においても周知。
- ・令和元（2019）年11月以降、随時公募開始、令和2（2020）年10月1日（木）以降採用。
- ・公募分野：有機材料化学（広島大学）、構造生物科学（広島大学・女性限定公募）、分子生物学（山口大学）
- ・4分野（再公募を含む）合計で11名の応募を得た（うち女性6名）。

#### ◆第14期・第15期公募（令和3（2021）年度前期）

- ・JREC-IN, コンソーシアム HP, 各大学 HP にて英語及び日本語で公募。各分野の国内学会 HP, メーリングリスト等においても周知。
- ・令和2（2020）年6月以降、随時公募開始、令和2（2020）年10月以降、随時運営協議会による審議（メール審議）。令和3（2021）年4月1日（木）以降採用予定。  
分野によって、令和2（2020）年12月以降、再公募開始。
- ・公募分野：AI研究 特に機械学習の理論とその応用に関する研究分野（広島大学）、AI研究 特に画像解析に関する研究分野（広島大学）、生物工学（環境バイオテクノロジー）（広島大学・女性限定公募）、熱帯作物生産学（広島大学・女性限定公募）、情報ネットワーク（徳島大学）
- ・6分野合計で31名の応募を得た（うち女性15名）。

◆第14期・第15期公募（令和3（2021）年度後期）

- ・JREC-IN, コンソーシアム HP, 各大学 HP にて英語及び日本語で公募。各分野の国内学会 HP, メーリングリスト等においても周知。
- ・令和2（2020）年12月以降, 随時公募開始。令和3（2021）年10月1日（金）以降採用予定。
- ・公募分野：エネルギー変換材料工学, エネルギー貯蔵材料（広島大学・女性限定公募）, 建築計画学・都市計画学分野（山口大学）

### 3-2. コンソーシアム教員の着任状況

(所属先名称は着任時のもの)

公募分野	所属先	氏名	採用日	テニユア取得等の日	その後
第1期(平成26(2014)年度 後期)					
欧米文学語学・言語学	広島大学 大学院文学研究科 助教	松本 舞	平成27(2015)年3月1日	令和元(2019)年9月30日	広島大学学術院 助教(大学院文学研究科)(テニユア)
マクロ経済学	広島大学 大学院社会科学研究科 助教	中川 雅央	平成27(2015)年3月1日	令和元(2019)年9月30日	広島大学学術院 助教(大学院社会科学研究科)(テニユア)
反応性機能分子の化学	広島大学 大学院理学研究科 助教	Shang Rong	平成27(2015)年3月1日	令和元(2019)年9月30日	広島大学学術院 助教(大学院理学研究科)(テニユア)
宇宙科学	広島大学 大学院理学研究科 助教	岡部 信広	平成27(2015)年3月1日	令和元(2019)年9月30日	広島大学学術院 助教(大学院理学研究科)(テニユア) 2020年4月准教授昇任
第2期(平成27(2015)年度 前期)					
病態制御学講座・獣医衛生学分野	山口大学 共同獣医学部 助教	渋谷 周作	平成27(2015)年4月1日	令和2(2020)年1月31日	山口大学 共同獣医学部 准教授(テニユア)
整形外科学	広島大学 大学院医歯薬保健学研究院(医) 助教	中島 祐子	平成27(2015)年4月1日	平成30(2018)年3月31日	広島大学 共同研究講座 准教授(任期付)(延長の可能性有)
細胞生物学もしくは発生生物学	山口大学 大学院医学系研究科 助教	原 裕貴	平成27(2015)年6月1日	令和2(2020)年3月31日	山口大学 大学院創成科学研究科(理学) 講師(テニユア)
水産生物学	広島大学 大学院生物圏科学研究科 助教	若林 香織	平成27(2015)年7月1日	平成31(2019)年3月31日	広島大学学術院 准教授(大学院統合生命科学研究科)(テニユア)
第3期(平成27(2015)年度 後期)					
家畜繁殖学	広島大学 大学院生物圏科学研究科 助教	星野 由美	平成27(2015)年11月1日	令和2(2020)年3月31日	日本女子大学 講師(テニユア)
地球環境計画学	広島大学 大学院工学研究院 助教	Lam Chi Yung	平成27(2015)年11月1日	令和2(2020)年9月30日	広島大学学術院 研究員(大学院先進理工系科学研究科)

公募分野	所属先	氏名	採用日	テニユア取得等の日	その後
老年看護学	広島大学 大学院医歯薬 保健学研究院 (保) 助教	梶原 弘平	平成 28(2016) 年 2 月 1 日	令和 2(2020) 年 3 月 31 日	日本赤十字九州国際 看護大学 准教授 (テニユア)
家畜繁殖学	徳島大学 大 学院生物資源 産業学部 特 任助教	谷原 史倫	平成 28(2016) 年 2 月 1 日	令和 2(2020) 年 9 月 30 日	自治医科大学 先進 医療技術開発センタ ー 准教授 (テニユ ア)
第 4 期 (平成 28(2016)年度 前期)					
果樹園芸学	山口大学 大 学院創成科学 研究科 農学系 学域 助教	金 貞希 (Kim Junghee)	平成 28(2016) 年 4 月 1 日		
有機合成薬学	徳島大学 大 学院医歯薬学 研究部 特任 助教	Karanjit Sangita	平成 28(2016) 年 4 月 1 日		
食品科学	広島大学学術 院 助教 (大 学院生物圏科 学研究科)	Kumrungsee Thanutchaporn	平成 28(2016) 年 4 月 1 日	令和 2(2020) 年 3 月 31 日	広島大学学術院 准 教授 (大学院統合生 命科学研究科) (テ ニユアトラック)
スポーツ栄養 学	広島大学学術 院 助教 (大 学院総合科学 研究科)	緒方 ひとみ	平成 28(2016) 年 9 月 1 日	平成 31(2019) 年 3 月 31 日	広島大学学術院 准 教授 (大学院総合科 学研究科) (テニユ ア)
第 5 期 (平成 28(2016)年度 後期)					
物性科学	広島大学学術 院 助教 (大 学院理学研究 科)	真木 祥千子	平成 28(2016) 年 11 月 1 日	平成 30(2018) 年 10 月 31 日	東北大学 講師
大気海洋循環 制御論	広島大学学術 院 助教 (大 学院生物圏科 学研究科)	岩本 洋子	平成 29(2017) 年 2 月 1 日	平成 31(2019) 年 3 月 31 日	広島大学学術院 准 教授 (大学院統合生 命科学研究科) (テ ニユア)
半導体・ナノ テクノロジー	広島大学学術 院 助教 (大 学院先端物質 科学研究科)	水川 友里	平成 29(2017) 年 3 月 1 日	令和 2(2020) 年 9 月 30 日	ソニーセミコンダク タマニユファクチャ リング株式会社
文化人類学	広島大学学術 院 助教 (大 学院総合科学 研究科)	栗田 梨津子	平成 29(2017) 年 3 月 1 日	平成 31(2019) 年 3 月 31 日	神奈川大学外国語学 部 助教 (テニユ ア) 准教授昇任

公募分野	所属先	氏名	採用日	テニユア取得等の日	その後
第6期（平成29(2017)年度 前期）					
代謝栄養学	徳島大学 大学院医歯薬学研究部 特任助教	黒田 雅士	平成29(2017)年4月1日		
生理化学	広島大学学術院 助教（大学院医歯薬保健学研究科（薬））	小藤 智史	平成29(2017)年6月1日	令和元(2019)年11月30日	東京医科歯科大学 講師（任期付）
放射線防護・線量評価	広島大学学術院 助教（原爆放射線医科学研究所）	廣田 誠子	平成29(2017)年10月1日	令和2(2020)年2月29日	広島大学学術院 助教（原爆放射線医科学研究所）（テニユアトラック）
第7期（平成29(2017)年度 後期）					
認知科学・実験心理学	広島大学学術院 助教（大学院総合科学研究科）	吉本 早苗	平成29(2017)年10月1日		
応用動物遺伝学	広島大学学術院 助教（大学院生物圏科学研究科）	中村 隼明	平成29(2017)年10月1日		
生物情報工学	広島大学学術院 助教（大学院先端物質科学研究科）	加藤 節	平成29(2017)年12月1日		
統計学	広島大学学術院 助教（大学院理学研究科）	伊森 晋平	平成30(2018)年1月18日	令和2(2020)年3月31日	広島大学学術院 准教授（大学院先進理工系科学研究科）（テニユア）
応用化学	山口大学 大学院創成科学研究科 工学系学域准教授	吉田 真明	平成30(2018)年3月1日		
第8期（平成30(2018)年度 前期）					
構造生物学	広島大学学術院 助教（大学院医歯薬保健学研究科（医））	東浦 彰史	平成30(2018)年4月1日		

公募分野	所属先	氏名	採用日	テニユア取得等の日	その後
生命医療科学	広島大学学術院 助教 (大学院理学研究科)	高橋 治子	平成 30(2018)年 4 月 1 日		
天文学	広島大学学術院 助教 (宇宙科学センター)	稲見 華恵	平成 31(2019)年 2 月 1 日		
第 9 期 (平成 30(2018)年度 後期)					
ロボット工学	徳島大学 大学院社会産業理工学研究部 助教	松井 保子	平成 30(2018)年 10 月 1 日	令和 2(2020)年 9 月 30 日	辞職
物理化学	広島大学学術院 助教 (大学院理学研究科)	村松 悟	平成 30(2018)年 10 月 1 日		
生命医療科学	広島大学学術院 助教 (大学院医歯薬保健学研究科 (医))	Kasaragod Deepa kamath	平成 30(2018)年 11 月 1 日		
構造材料工学	広島大学学術院 助教 (大学院工学研究科)	George Riya Catherine	平成 30(2018)年 12 月 1 日		
循環環境工学	山口大学 大学院創成科学研究科 工学系学域 准教授	石井 治之	平成 31(2019)年 2 月 1 日		
第 10 期 (平成 31(2019)年度 前期)					
統計学	広島大学学術院 助教 (大学院社会科学研究科)	高島 哲也	平成 31(2019)年 4 月 1 日		
数理モデリング	広島大学学術院 助教 (大学院理学研究科)	藤井 雅史	平成 31(2019)年 4 月 1 日		

公募分野	所属先	氏名	採用日	テニユア取得等の日	その後
農学応用生命科学(応用動物生命科学)	広島大学大学院 助教(大学院統合生命科学研究所)	松崎 芽衣	平成 31(2019)年 4 月 1 日		
第 1 1 期 (令和元(2019)年度 後期)					
次世代フォトニクス研究	徳島大学 ポスト LED フォトニクス研究所 特任助教	長谷 栄治	令和元(2019)年 10 月 1 日		
応用有機化学	広島大学大学院 助教(大学院工学研究科)	河崎 陸	令和元(2019)年 10 月 1 日		
植物生産学	広島大学大学院 助教(大学院統合生命科学研究所)	田中 若奈	令和元(2019)年 12 月 1 日		
材料科学に立脚した物性物理学	広島大学大学院 助教(大学院理学研究科)	Kim Sangwook	令和 2(2020)年 2 月 1 日		
知能情報工学	山口大学大学院創成科学研究科工学系学域 助教	相田 紗織	令和 2(2020)年 3 月 1 日		
第 1 2 期 (令和 2(2020)年度 前期)					
化学工学・サステイナブル工学・表面科学・材料科学	広島大学大学院 助教(大学院先進理工系科学研究科)	Lee Ji Ha	令和 2(2020)年 4 月 1 日		
家禽生理学	広島大学大学院 助教(大学院統合生命科学研究所)	新居 隆浩	令和 2(2020)年 4 月 1 日		
放射線生物学・放射線防護学	広島大学大学院 助教(原爆放射線医科学研究所)	神代 紗央理	令和 2(2020)年 4 月 1 日		

公募分野	所属先	氏名	採用日	テニユア取得等の日	その後
流域水資源安全保障学	広島大学大学院 助教（大学院先進理工系科学研究科）	石田 卓也	令和2(2020) 年4月1日		
創薬理論化学	徳島大学 大学 院医歯薬学研究 部 助教	稲垣 舞	令和2(2020) 年4月1日		
第13期（令和2(2020)年度 後期）					
有機材料化学	広島大学大学院 助教（大学院先進理工系科学研究科）	兼松 佑典	令和2(2020) 年10月1日		
構造生物学	広島大学大学院 助教（大学院統合生命科学研究科）	Tiwari Sandhya Premnath	令和3(2021) 年3月1日		
分子生物学分野	山口大学大学院 医学系研究科	富永 直臣	令和3(2021) 年3月1日		

### 3-3. コンソーシアム教員の育成

#### 3-3-1. 自立的研究環境確保等について

コンソーシアムを通じた公募により採用された若手研究者は、基本的には各機関のテニュアトラック教員として採用されている。これにより、外部資金雇用の若手研究者等と比較し、各段に安定した身分と共に、研究内容・研究場所の自由を与え、安定性と流動性を同時に満たしている。

テニュアトラック教員として採用されることで、任期中の自立的な環境を得ると共に、業績に応じて将来の安定した職が担保されている。また、PI (Principal Investigator) としての自覚を促し、研究環境を担保することで、外部資金を獲得し自律的に責任をもって研究を遂行することができている。

また、通常の教員としての取扱いをコンソーシアムとして各機関に強く求めており、例えば広島大学においてコンソーシアム教員は、教育研究基盤経費(校費)の面においても、他の助教と同じ取り扱いを受けている。加えて、本事業からのスタートアップ経費の支出により、真に自立的な研究環境の確保を担保した。

あわせて、コンソーシアム教員には積極的なラボローテーションやクロスアポイントメントを推奨しており、各機関・部局との協力体制のもと、これまで数件のラボローテーションの実施に繋がっている。クロスアポイントメントに関しては、可能性を含めて現在検討中である。また、コンソーシアム教員内での、今後の共同研究に向け相談を開始する事例も発生している。

研究環境状況については、定期的な半期毎の進捗状況の報告を受けている他、各年度の評価で、コンソーシアム実行委員会及び事務局が実情を常時把握している。これらを通して、必要に応じて所属する部局長等とコンソーシアム実行委員会及び事務局との意見交換も実施しており、所属内だけでは解決が困難であることも、コンソーシアムが客観的に関わることで、研究エフォートの確保、研究と教育のバランス、本人のキャリア段階に応じた職務の割振り等を目指している。

#### 3-3-2. コンソーシアム教員研修について

コンソーシアム教員は、各大学で通常の助教として採用されるため、各大学で新任教員に対するファカルティーディベロップメント(FD)などを通じて、助教としての基礎力を身に着けることになる。例えば、広島大学では、教育の質保証に資するため、新任教員に対して、教員として働くために知っておくべき基本的知識の獲得やスキル向上の機会を提供することを目的として、平成25(2013)年10月以降新たに着任する教員に対して、新任教員研修プログラムの20時間以上の受講を必須化し、平成26(2014)年4月からプログラムの運用を開始している。広島大学に在籍するコンソーシアム教員は現在まですべてこの対象者であり、随時、新採用教職員研修や大学教育論などを通年で受講している。

加えて、コンソーシアム教員には、産学連携等を通じ幅広い舞台で活躍する能力、異分野と連携する能力が求められている。コンソーシアムとしては、教員の状況をモニタリング(評価)し、必要に応じて情報提供・指導を行い、FD等と相補的な研修を実施する、無駄の少ない継続的な仕組みの構築を目指している。

また、他の組織が主催するセミナー等についても、その目的が合致するものについてコンソーシアムが共催となり、コンソーシアム教員への多様な研修機会を提供している。なお、平成28(2016)年度以降開催の研修については、積極的にTV会議システムを用いて、参加しやすい環境を構築している。

令和2(2020)年度

□広島の地ではじめる良縁創出プロジェクト「第2回東広島100人論文」

(第38回コンソーシアム教員研修)(令和2(2020)年8月24日(火)~28日(土))

広島大学，東広島市産学官連携推進協議会 共催

2015年から京都大学で「あなたの不得意は誰かの得意。そして逆に、あなたの得意は誰かの不得意。」として毎年開催されている学際的研究を創出するイベント「学内良縁プロジェクト 京大100人論文」を、広島大学と東広島市産学官連携推進協議会の共催で行うものについて、コンソーシアム教員に対し広く周知し、積極的な参加を促した。

□Vitaeによるウェビナー“Effective Mentoring Relationship”

(第39回コンソーシアム教員研修)(令和2(2020)年9月4日(金))

HIRAKU-Global事業 主催

VitaeUKが主催するインタラクティブなウェビナーを通じてメンター/メンティー関連のスキルを開発する機会を設けた。ウェビナーはZoom内の完全なオンラインで実施され、「効果的なメンタリング関係」に焦点を当て、成功した効果的な関係を築くためにメンティーとメンターが同様に実行する必要があることを探った。

□Nature誌の編集者による英語論文執筆ワークショップ

(第40回コンソーシアム教員研修)(令和2(2020)年9月22日(火)～26日(土))

広島大学 学術・社会連携部支援部 主催

Nature誌の編集者によるインタラクティブな論文執筆ワークショップ・講義を3部構成のウェビナー形式で開催し、各人の研究分野にあった論文執筆のポイント・ノウハウを学んだ。

□2020年度広島大学新任教員研修プログラム「研究マネジメント研修」

(第41回コンソーシアム教員研修)(令和2(2020)年12月7日(月), 12月14日(月))

広島大学 学術・社会連携部支援部 主催

本学の研究者(主にDR: Distinguished Researcher)による講義を通じて、研究マネジメントの方法を学び、自身の環境改善に役立てる事を目的とし、自身の研究分野に即した研究者からのアドバイスを受ける。

□PIを目指す若手研究者のためのオンラインセミナー

(第42回コンソーシアム教員研修)(令和3(2021)年3月17日(水), 3月26日(金) 予定)

HIRAKU-Global事業 主催,

HIRAKU事業, ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)事業 共催

IRIS科学・技術経営研究所の講師による、英語によるオンライン(Zoom)研修(第1回「Lab Leadership & Management Skills」, 第2回「Networking & Collaboration in Global Science」)において、リーダーシップと研究マネジメント, ネットワーキングの基礎知識・スキルについて学ぶ。

### 3-3-3. メンター制度など

各コンソーシアム教員には、2人以上のメンターが配置されている。コンソーシアムとして、企業等における研究経験の豊富な方をコンソーシアムメンターとして雇用し、産学連携を目指したコンソーシアムからの立場で、各コンソーシアム教員に助言・指導を行っている(鈴木榮一郎広島大学客員教授)。加えて、各コンソーシアム教員と同じ専門性を持つ教員(通常は配属先のシニア教員)を配属先メンターとしている。配属先メンターは、分野の特性に応じた指導を行うと共に、身近にいて日々の指導、助言を行う。このコンソーシアムメンターと部局メンターの二人で両面から助言、指導を行うことで、産学連携からの視点を培うと同時に、教員としてのキャリア構築に向けた支援を受けることができる。

また、自立的、主体的に研究を実施するためには、競争的資金の獲得は特に欠かすことができない。このため、コンソーシアム教員からの希望に沿って、個々の専門分野・特性に応じたURAの紹介、各種のセミナーの周知等の支援を実施している。こうした配属先メンターの指導と、実行委員会・事務局の支援により着任直後から競争的資金獲得に向けて動くことが可能となっている。科研費獲得についても積極的に取り組んでおり、令和2(2020)年度は広島大学所属のコンソーシアム教員のうち10名(コンソーシアム離籍者4名を含む)が、新たに研究代表者として採択された。

### 3-4. コンソーシアム教員の評価

コンソーシアム実行委員会が中心となり、コンソーシアムとして毎年の評価を実施している。コンソーシアム教員の着任後1年目、2年目の評価は面談を中心としたものであり、そこで得た情報を元に、より良い研究キャリア構築に向けて、必要に応じて配属先への働きかけ、配属先メンターとの相談を行っている。

また着任3年後までには中間評価、4年半後までには最終評価を実施し、各教員の配属先のテニユア移行審査と連携して行った。

#### ◆毎年度評価

1年目評価及び2年目評価は、コンソーシアム教員の現状確認及びモニタリングを主とし、以下に基づき実施している。

評価目的：

コンソーシアム教員の活動状況や研究環境等を把握し、必要に応じて助言を与え、状況を改善する。

評価主体：

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」コンソーシアム実行委員会に評価部会を設置し、実施する。評価部会は、実行委員長が必要と認める者、2名以上で構成する。

評価方法：

- ① 以下の内容について、被評価者が資料を作成し、提出。
  1. 原著論文数、研究発表数、共同研究数、外部資金獲得実績、講義数等の定量的な状況報告
  2. 自己評価(自己アピール)、次年度計画の記述
  3. 上記1に関連してそれぞれの具体的な情報の記述
- ② ①で提出された資料を元に評価者が各教員の現状を把握。
- ③ 評価部会による被評価者への面談。
- ④ 評価部会は運営協議会に評価結果を提出。

評価結果のフィードバック：

評価結果を被評価者、メンターに通知する。必要に応じて被評価者への新たな支援の検討や、各大学、配属先に状況の改善について働きかけを行う。

#### ◆中間評価

コンソーシアム教員に対して、着任から3年後までの間に、中間評価を以下のとおり実施している。教員に求めている情報及び基本的な流れは、毎年度評価とほぼ同様の内容である。令和2(2020)年度は、第7期・第8期採用教員6名について中間評価を実施した。

中間評価の目的：

コンソーシアム教員としての任期の半分を過ぎるにあたり、これまでの教員としての活動状況を元に、コンソーシアムとしての評価を行う。また、各教員のテニユア審査に向けた進捗状況に照らし合わせて、必要に応じて本人に助言を与え、また所属機関及びコンソーシアム

等各組織に評価結果を伝えることで、コンソーシアム教員のより良いキャリアに資することを旨とする。

評価の実施：

コンソーシアム実行委員会に評価部会を設置し、実施する。評価部会は、実行委員長が必要と認める者、3名以上で構成する。

評価の方法：

コンソーシアム教員が作成した報告書及び事務局が作成したコンソーシアムでの活動実績等を元に、評価部会において面談を実施し評価を行う。

評価項目は、研究、教育、外部資金獲得、社会貢献、コンソーシアム活動の各項目及び総合評価とする。コンソーシアム活動については、外部との共同研究のほか教員研修への参加状況、その他コンソーシアム事業への積極的な関与等をもとに評価する。

評価結果の取扱：

コンソーシアム実行委員長が各評価委員の評価結果を取りまとめる。その評価結果を、コンソーシアム教員、各所属組織長及びコンソーシアム運営協議会にそれぞれ通知、報告を行う。

#### ◆最終評価

コンソーシアム教員に対して、着任から4年半後までの間に、最終評価を以下のとおり実施している。教員に求めている情報及び基本的な流れは、毎年度評価とほぼ同様の内容である。令和2（2020）年度は、第4期1名について最終評価を実施した。

最終評価の目的：

テニュアトラック期間が満了するまでに、コンソーシアム教員の活動状況や研究実績等を評価し、テニュアを付与するかどうかの最終審査を実施する。なお、最終審査の時期は、所属（配属）先の規則等に定められた時期によるものとする。

評価の実施：

コンソーシアム実行委員会に評価部会を設置し、実施する。評価部会は、実行委員長が必要と認める者、3名以上で構成する。

評価の方法：

コンソーシアム教員が作成した報告書及び事務局が作成したコンソーシアムでの活動実績等を元に、評価部会において面談を実施し評価を行う。

評価項目は、研究、教育、外部資金獲得、社会貢献、コンソーシアム活動の各項目及び総合評価とする。コンソーシアム活動については、外部との共同研究のほか教員研修への参加状況、その他コンソーシアム事業への積極的な関与等をもとに評価する。

評価の取扱：

コンソーシアム実行委員長が各評価委員の評価結果を取りまとめる。その評価結果を、コンソーシアム教員、各所属組織長及びコンソーシアム運営協議会にそれぞれ通知、報告を行う。

## 4. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム

### 4-1. 長期インターンシップ生の募集

イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラムでは、理工農系、医療系、人文社会系の枠組みにとらわれず、若手研究者が異なる領域にも果敢に挑戦し、社会を変革する意識と情熱を持った人材を育てることを目指している。その一環として、若手研究者が実際の企業や社会の課題解決に貢献しつつ、実践的な能力の養成とキャリアオプションの拡大を図ることを目的として、長期インターンシップ派遣制度を設けている。

令和元（2019）年度からは、本事業への補助金が終了したことに伴い、インターンシップ受入企業等からの支援もお願いしながら、派遣先のリスト化を図った。

また、コンソーシアムとして共通の募集要項を作成し、運営協議会で承認の後、コンソーシアム全体として公募を開始した。

### 12期・13期（令和2（2020）年度）

【募集期間】令和2（2020）年4月1日（水）～令和2（2020）年11月30日（月）

【募集対象】

（代表実施機関）広島大学

（共同実施機関）山口大学、徳島大学

（連携機関）岡山大学、島根大学、鳥取大学、愛媛大学、香川大学、高知大学、鳴門教育大学、岐阜大学、

国立遺伝学研究所、県立広島大学、高知工科大学、広島市立大学、広島国際大学、立命館大学に

在籍中の博士課程（博士課程前期を除く。）の学生あるいは博士課程（博士課程前期を除く。）

修了後5年程度以内の任期付研究者。

### 4-2. 長期インターンシップの派遣実績

令和2（2020）年度 第12期派遣者 ※学年は派遣時

	所属		性別	国籍	学年/職名	派遣先	派遣期間	審査状況
1	広島大学	大学院工学研究科	男	アフガニスタン	D3	UNITAR 広島事務所	2020/8/3 ～ 2020/9/30	広島大学 (2020/8/14)
2	広島大学	グローバルキャリアデザインセンター (特別研究員)	男	ベトナム	PD	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 西日本農業研究センター	2020/8/17 ～ 2020/9/11	広島大学 (2020/7/15)
3	広島大学	大学院文学研究科	女	中国	D2	公益財団法人 平山郁夫美術館	2020/8/21 ～ 2020/9/29	広島大学 (2020/7/31)
4	山口大学	創成科学研究科	男	日本	D1	産業技術総合研究所	2020/9/1 ～ 2020/9/30	山口大学 (2020/3/26)

## 5. 成果報告会

### 5-1. 第11回成果報告会

【日 時】令和2（2020）年7月9日（木）13:30～15:50

【開催方法】オンライン（Zoom）

【参加者】104名

◆開会挨拶 山口大学 理事・副学長（学術研究担当） 上西 研

◆テニュアトラック教員による着任報告

- (1) 長谷 栄治／徳島大学ポストLED フォトニクス研究所 特任助教
- (2) 相田 紗織／山口大学大学院創成科学研究科（知能情報工学）
- (3) 稲垣 舞／徳島大学大学院医歯薬学研究部（薬学域） 助教
- (4) 石田 卓也／広島大学学術院 助教（大学院先進理工系科学研究科）
- (5) 神代 紗央理／広島大学学術院 助教（原爆放射線医科学研究所）
- (6) 新居 隆浩／広島大学学術院 助教（大学院統合生命科学研究科）
- (7) LEE, Ji Ha／広島大学学術院 助教（大学院先進理工系科学研究科）

◆長期インターンシップ派遣者による報告（広島大学、徳島大学の博士後期課程学生）

- (1) 太田 雅士（徳島大学 D2）  
受入先：日本テクノサービス株式会社
- (2) 熊代 宗弘（広島大学 D2）  
受入先：ユニカミノルタ株式会社
- (3) 李 受ミン（広島大学 D2）  
受入先：UNITAR 広島事務所

◆閉会挨拶（次回開催校） 広島大学 理事・副学長（学術・社会連携担当） 楯 真一



## 5-2. 第12回成果報告会

【日 時】令和3（2021）年3月3日（金）13：00～15：20

【会 場】オンライン開催

【参加者】153名

HIRAKU  
未来を拓く地方協奏プラットフォーム  
第12回 成果報告会  
日 回 2021年3月3日(水) 13:00~15:20  
会 場 オンライン開催 (一般参加可能 ※事前申込あり)  
セッションI  
博士のキャリア開発と企業採用  
HIRAKUでは、博士課程後期学生・ポストドクターのキャリア開発をサポートしています。企業における長期インターンシップの活用や人材採用の実例、インターンシップ体験談などを紹介します。  
セッションII  
若手教員の研究最前線  
HIRAKUで採用した新進気鋭の若手教員が、研究の魅力を分かりやすく紹介します。また、彼らのキャリアを振り返りながら、研究者としてキャリアアップするためのヒントもお伝えします。  
◆会 場： 会場  
◆日 時： 2021年3月3日(水) 13:00~15:20  
◆参加費： 無料  
◆お問い合わせ先： HIRAKU事務局 (〒739-8521 広島大学 学術院 学術院事務局 3階)  
TEL: 082-421-2026 E-mail: hiraku@post.hiroshima-u.ac.jp

プログラム

13：00

### ◆開会挨拶

広島大学理事・副学長（学術・産学連携担当） 楯 真一  
「未来を拓く地方協奏プラットフォーム（HIRAKU）」の  
取組紹介 広島大学 学長特命補佐 相田 美砂子

13：10

### ◆セッションI：博士のキャリア開発と企業採用

座長： 三須 敏幸（広島大学グローバルキャリアデザインセンター 副センター長）

◎ 研究の魅力とビジョンを伝える ～未来博士3分間コンペティション2020から～

13：20

◎ 「戸田工業におけるインターンシップについて」

青木 功荘 氏（戸田工業株式会社 取締役執行役員）

13：35

◎ 長期インターンシップ経験者の就職後の振り返り

・「博士課程後期インターンシップの勧め」

上川 修平 氏（戸田工業株式会社）

（インターンシップ派遣時：広島大学大学院先端物質科学研究科 D2）

・「博士課程在籍中の長期インターンシップの意義と企業就職という進路について」

谷口 純一 氏（株式会社東京建設コンサルタント）

（インターンシップ派遣時：徳島大学大学院先端技術科学教育部 D2）

13：55

◎ 長期インターンシップ体験報告

派遣者の声 PAL PRATIBHA 氏（台湾国立成功大学 研究員）

（インターンシップ派遣時：広島大学大学院工学研究科 D3）

受入機関担当者の声 佐々木 拓朗 氏（昭和電工株式会社）

14：00

◎ ディスカッション

14：20

休憩

14：30

### ◆セッションII：若手教員の研究最前線

座長： 若林 香織（広島大学学術院 准教授（大学院統合生命科学研究科））

◎ HIRAKU教員が語る研究のビジョンと魅力

・「Relationship between crystal structure and electrical properties in piezoelectrics」

Kim San gwoo k（広島大学学術院 助教（大学院先進理工系科学研究科））

・「機械学習に基づく実験計画支援システム」

兼松 佑典（広島大学学術院 助教（大学院先進理工系科学研究科））

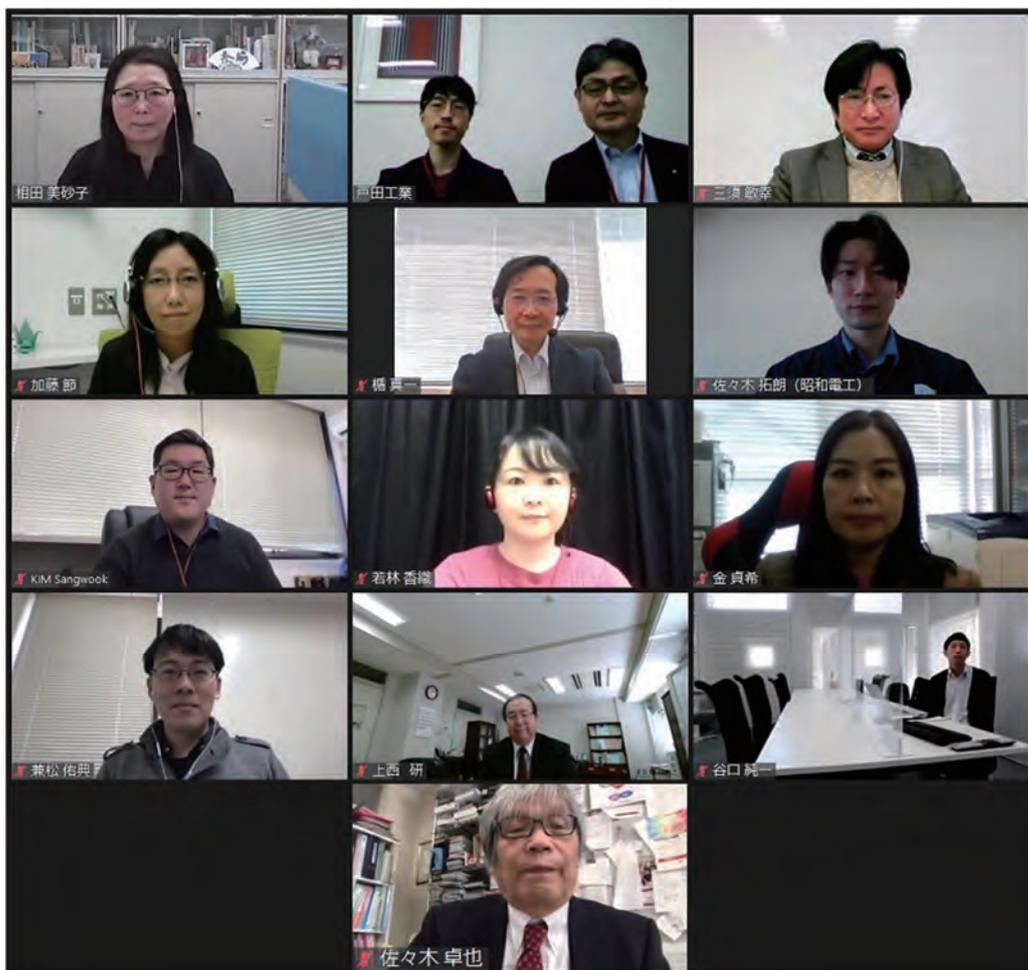
- ・「果樹研究の面白さ」  
金 貞希 (山口大学大学院創成科学研究科 助教)
- ・「若手研究者のキャリア形成とその環境」  
加藤 節 (広島大学大学院 助教 (大学院統合生命科学研究科))

15 : 00

◎ ディスカッション

15 : 15

◆閉会挨拶 (次回開催校) : 佐々木 卓也 (徳島大学 理事 (研究担当) ・副学長)



集合写真

## 6. DC や PD が積極的に関与する取組

### 6-1. 未来博士3分間コンペティション2020

博士課程後期の学生が、3分間の限られた時間内に自身の研究ビジョンや魅力を、中学生、高校生を含む一般聴衆にもわかるように伝える。学生のコミュニケーション力の向上を図ると同時に社会における博士人材と博士研究に対する肯定的な理解の向上につなげる。2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインで開催。

【日 時】 令和2（2020）年11月21日（土）13:00～17:30

【場 所】 オンライン開催

【参加者】 日本語部門：160名，英語部門335名



13:00 日本語部門オープニング

開会挨拶：越智 光夫（広島大学長）

来賓挨拶：Alastair McEwan（豪州クイーンズランド大学副総長）

13:10 日本語部門ファイナリスト3分間プレゼンテーション

14:10 日本語部門ファイナリスト博士課程学生によるパネルトーク

「これからの社会と未来のLife」

モデレーター：本田 隆行氏（フリーランス科学コミュニケーター）

14:45 日本語部門クロージング

表彰式

閉会挨拶：原山 優子

（理化学研究所理事／前総合科学技術・イノベーション会議常勤議員）

15:30 英語部門オープニング

開会挨拶：越智 光夫（広島大学長）

来賓挨拶：Alastair McEwan（豪州クイーンズランド大学副総長）

15:40 英語部門ファイナリスト3分間プレゼンテーション

16:40 英語部門ファイナリスト博士課程学生によるパネルトーク

「これからの社会と未来のLife」

モデレーター：島田 一義氏（国立研究開発法人科学技術振興機構ワシントン事務所長）

17:15 英語部門クロージング

表彰式

閉会挨拶：原山 優子

（理化学研究所理事／前総合科学技術・イノベーション会議常勤議員）

◆審査結果（日本語部門）

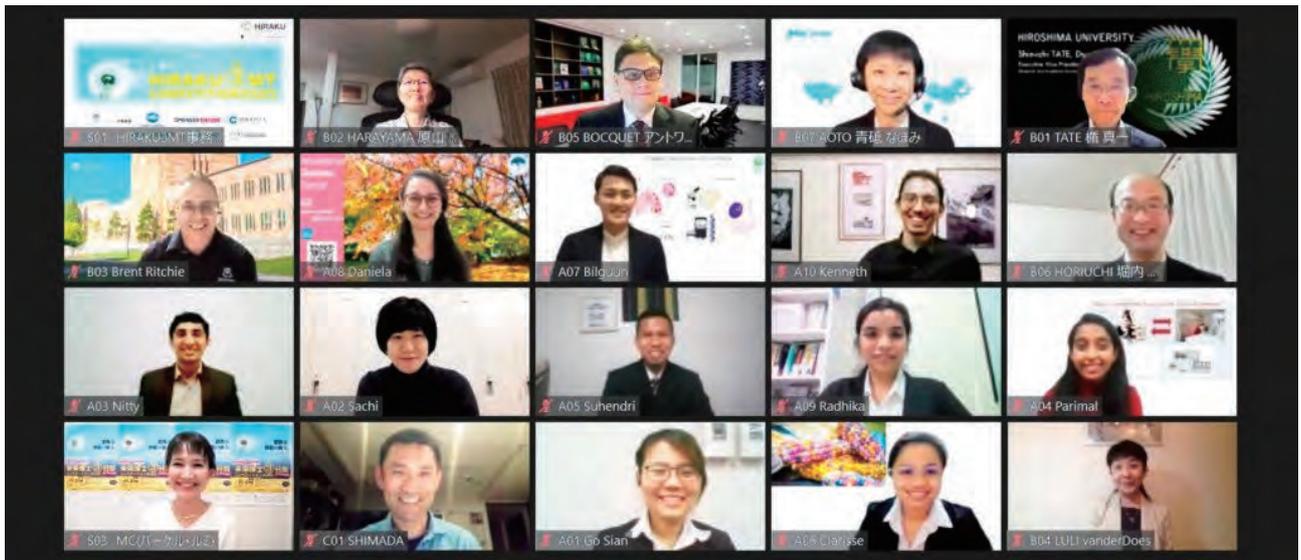
賞名	受賞者		タイトル
最優秀賞	山口大学	山田 耕輝	光を使って電池の謎を解明！～完璧な電池にむけて～
優秀賞	広島大学	田中 英也	パズルのように分子を繋げる！
オーディエンス賞	広島大学	森山 教洋	空気から水をつくる膜分離技術
大塚動画賞	京都大学	秤谷 隼世	「がん転移」の力で、細胞を移植する － 効率的な心臓移植を目指して
コニカミノルタ動画賞	筑波大学	竹原 繭子	心を見つける脳波解読技術の開発
Nature ダイジェスト動画賞	広島大学	森山 教洋	空気から水をつくる膜分離技術
中外テクノス動画賞	広島大学	森山 教洋	空気から水をつくる膜分離技術
JSW 日本製鋼所動画賞	早稲田大学	渡辺 昌仁	対流に潜む骨格 LCS を見つけ出せ！ 流体混合のメカニズム解明
マイクロン動画賞	広島市立大学	岩瀬 大佑	難聴テレフォン ～コミュニケーションの壁をなくす～
マツダ動画賞	山口大学	山田 耕輝	光を使って電池の謎を解明！ ～完璧な電池にむけて～

◆審査結果（英語部門）

賞名	受賞者		タイトル
最優秀賞（英語部門）	京都大学	Kenneth Keuk	Cheesy epidemiology: studying the biodiversity-disease relationship in Bornean primates
優秀賞（英語部門）	京都大学	Anamaria Daniela Sarca	A faster, more easily available tool to detect and quantify HIV-1 maturation
オーディエンス賞（英語部門）	北陸先端科学技術大学院大学	Radhika Biyani	Virtual Reality for Virus-X
Otsuka Award	広島大学	Suhendri	Effective Professional Development in Inclusive Education: “Education for All” Means for All
KONICA MINOLTA Award	浜松医科大学	Nitty Skariah Mathews	Restoring balance to a fine but occasionally flawed blood coagulation system
Springer Nature Award	京都大学	Kenneth Keuk	Cheesy epidemiology: studying the biodiversity-disease relationship in Bornean primates
JSW Award	京都大学	Vanessa Nadine Gris	Do monkeys have a pain face?
Micron Award	岐阜大学	Go Sian Huai	Dream of a girl from a developing country ; Myanmar



日本語部門 集合写真



英語部門 集合写真

## 6-2. 第5回課題提案型ワークショップ

受講者内でチームを組み、企業から提供された課題の解決策についての討論など、グループワークを中心とした演習を行った。令和2年度のワークショップでは、かねてから問題になっている、外国人材を活用したい日本企業と日本で就職をしたい留学生のミスマッチをテーマとし、就職活動そのものではなく、インターンシップに焦点を絞って進行した。フィールドワークや検討ワークショップを通し、最終的に課題提案企業に解決策を提案した。

広島大学大学院共通科目「イノベーション演習」の一環として行い、履修生6名、聴講生1名が、3名前後の企業参加者と交流しながらワークショップを進めた。



### ◆課題提案

留学生の就活 : Reimagine Internships for Int'l Students

課題提案企業 株式会社JTB 広島支店 / 株式会社 バク宙

### ◆スケジュール

第1回	オリエンテーション	10月7日(水) 14:35-17:50 (会場:広島大学東広島キャンパス)
第2回	チーム編成/チームビルディング	10月14日(水) 14:30-18:30 (会場: Zoom によるオンライン)
第3回	ヒアリング準備	10月21日(水) 14:35-17:50 (会場:広島大学東広島キャンパス)
第4回①	フィールドワーク①	10月28日(水) 15:00-17:50 (会場: Zoom によるオンライン)
第4回②	フィールドワーク②	11月2日(月) 14:00-15:00 (会場: 宇品グランドプリンスホテル)
第5回	検討ワークショップ	11月4日(水) 14:35-17:50 (会場: Zoom によるオンライン)
第6回	検討ワークショップ	11月11日(水) 14:35-17:50 (会場:広島大学東広島キャンパス)
第7回	プレゼン準備	11月18日(水) 14:35-17:50 (会場: Zoom によるオンライン)
第8回	成果発表会	11月25日(水) 14:35-17:50 (会場:広島大学東広島キャンパス)

#### ◆成果発表の内容

令和2（2020）年11月25日、広島大学東広島キャンパス「にぎわいパビリオン」にて成果発表会が開催された。博士課程後期在籍者の履修生6名と、提案企業の株式会社JTB広島支店およびバク宙株式会社の社員の方々が参加し、最終の企画発表会が行われた。履修生6名のうち2名はミャンマーから、提案企業のうち一社は東京からオンラインで参加した。



Group 1 Momiji チームは、複数社へのインタビューや留学生へのヒアリングを通して得られた気づきを纏め、言語や専門分野などのミスマッチを解消するための”Momiji Match” サイトを提案。企業側と学生側の入力情報をアルゴリズムでマッチングさせる仕組みを提案した。

Group 2 Kizuna 絆チームは、同様に複数の協力企業および留学生へのインタビュー結果から、今回の提案企業の一社、株式会社バク宙が展開するマッチングサイト JIKOPY が活用し得る機会・市場を可視化し、言語の壁を解消する手段として“Internship Mate” 制度や、インターンシップ情報のバイリンガル化などを提案した。



発表後には、ビジネスとしてどのようにキャッシュフローを生み出すのか質問が出たが、「企業だけではなく、学生が習得すべき知識を学べる研修などを提供することで、学生側への課金を可能とする付加価値が生み出せるはずだ」といった意見が挙げられた。



提案企業からは、「留学生と地元企業とのマッチングという点で、一緒に学ばせていただいた。具体的な課題を洗い出してもらったことも重要だし、これまで想定していなかったアイデアも得られ、非常にありがたいと思う。履修生の皆さんが真剣に議論し、発表にまとめてくれたことは、その内容はもちろんのこと、多様な海外からの人材を、日本企業という、やや特殊なフィールドへ、ミスリードなく、有効にマッチングをしていく、自分たちの使命を強く再認識する機会にもなった。」というフィードバックが寄せられた。

### 6-3. ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム

(The 17th Nano Bio Info Chemistry Symposium)

融合領域研究の英語による口頭発表で構成するナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウムを開催している。

英語による口頭発表をした学生のうち、シニア参加者の投票により、The Best Student Presentation Award と Student Award を授与している。

【日 時】 令和 2 (2020) 年 12 月 9 日 (水), 10 日 (木), 11 日 (金)  
(Zoom によるオンライン開催)

【一般講演】 28 件 (内 : 学生の発表 18)

【参加者】 64 名 (学生 23 名, 一般 41 名)

【学生賞】 参加者 (学生は除く) の投票により, 上位 1 名に The Best Student Presentation Award が, 2 名に Student Award が授与された。

The Best Student Presentation Award (1 名)

Akane KATO (M2)

“Steric effect by substituents on spin state of iron(II) assembled complexes using low symmetry bis(4-pyridyl)benzene derivatives”

Student Award (2 名)

Airi OGURI (M1)

“Attempts to synthesize antiaromatic  $\sigma$ -dimer : Silyl group conversion of cobalt complex”

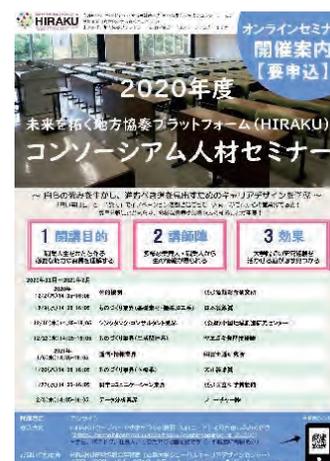
Shin-nosuke KINOSHITA (D3)

“Experimental and theoretical study on the nonradiative decay process of cinnamates aimed for the development of effective sunscreen reagents”

## 7. コンソーシアム人材セミナー

コンソーシアム人材セミナーは「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の取組の一環および広島大学「大学院共通科目（高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント）」として開催している。

セミナーは、「グローバル化と科学技術の進展に伴い、社会における人材ニーズも時代とともに変化している中、多様な業界の関係者や職業に従事されている方々からの講義やディスカッションを通じて、研究経験を有する専門性の高い人材が活躍できるキャリアの選択肢と必要な能力や資質等を理解する」ことを目的とし、様々な業界でのキャリアに焦点をあて、大学院での研究経験を活かしつつ新たなキャリアに挑戦する意義や魅力について紹介する。



回	開催地	日程	講演テーマ	講師
第 93 回	広島	令和 2(2020)年 6月 17日(水) 14:35~16:05	科学技術行政におけるキャリア形成	文部科学省 科学技術・学術政策局 政策課 専門官 (併)総括係長 鈴野 光史 氏
第 94 回	広島	令和 2(2020)年 6月 24日(水) 14:35~16:05	デジタル・トランスフォーメーションとイノベーション戦略	EY 新日本有限責任監査法人 FAAS 事業部 気候変動・サステナビリティ サービス 国際公共チーム マネージャー 小知和 裕美 氏
第 95 回	広島	令和 2(2020)年 7月 1日(水) 14:35~16:05	博士号とりんさい:今求められる技術者の柔軟性と技術の”幹”としての博士号	コニカミノルタ株式会社 開発統括本部 課長 布施 優 氏
第 96 回	広島	令和 2(2020)年 7月 8日(水) 14:35~16:05	ある博士号取得者の現在地 (物理、楽器開発、クラウドサービスと事業開発の経験から)	西日本電信電話株式会社 ビジネスデザイン部 浦谷 佳孝 氏
第 97 回	広島	令和 2(2020)年 7月 15日(水) 14:35~16:05	大学教員から企業研究開発職へ	丸善製薬株式会社 研究開発本部 西谷 洋輔 氏
第 98 回	広島	令和 2(2020)年 7月 29日(水) 14:35~16:05	研究者からパブリッシングエディターへ	シュプリンガー・ジャパン株式会社 アソシエイト・エディター/ジャーナル編集部 中嶋 大輔 氏
第 99 回	広島	令和 2(2020)年 8月 5日(水) 14:35~16:05	超スマート社会における博士への期待	株式会社データフォーシーズ 執行役員 株式会社D4c アカデミー取締役社長 和田 陽一郎 氏
第 100 回	広島	令和 2(2020)年 8月 12日(水) 14:35~16:05	倉敷紡績の研究・開発マネジメント	倉敷紡績株式会社 常務執行役員 技術研究所長 八木 克真 氏

回	開催地	日程	講演テーマ	講師
第 101 回	広島	令和 2(2020)年 12月 2 日(水) 14:35～16:05	グローバル化における科学者の役割	独立行政法人 酒類総合研究所 岡田 佳那子 氏
第 102 回	広島	令和 2(2020)年 12月 9 日(水) 14:35～16:05	ものづくりを支える研究開発	日本製鉄株式会社 技術開発本部 先端技術研究所 数理科学 研究部長 西岡 浩樹 氏
第 103 回	広島	令和 2(2020)年 12月 16 日(水) 14:35～16:05	地方シンクタンクの業務紹介～ 地方でできること, やるべきこと～	公益財団法人 中国地域創造研究センター 調査・研究部 地域づくりグループ長 主席 研究員 吉原 俊朗 氏
第 104 回	広島	令和 2(2020)年 12月 23 日(水) 14:35～16:05	研究から事業開発へ	ヤエガキ醗酵技研株式会社 機能性食品研究開発部 次長 兼 第二製 造部 次長 常 勇進 氏
第 105 回	広島	令和 3(2021)年 1月 6 日(水) 14:35～16:05	企業研究所におけるキャリア	株式会社富士通研究所 ICTシステム研究所 プロジェクトマネージャ ー 吉田 英司 氏
第 106 回	広島	令和 3(2021)年 1月 20 日(水) 14:35～16:05	『大正製薬』を一例に, 製薬業 界とその職種を理解しよう!	大正製薬株式会社 研究総務部 参事 大澤 浩一 氏
第 107 回	広島	令和 3(2021)年 1月 27 日(水) 14:35～16:05	科学博物館で科学コミュニケ ーション!	独立行政法人 国立科学博物館 科学系博物館イノベーションセンター マー ケティング・コンテンツグループ 係長 内尾 優子 氏
第 108 回	広島	令和 3(2021)年 2月 3 日(水) 14:35～16:05	IT 業界でのデータ分析人材 のキャリア	フューチャー株式会社 アーキテクト 米谷 悠 氏
第 109 回	山口	令和 2(2020)年 7月 16 日(木) 12:50～14:20	グローバル化時代の研究者・ 技術者～グローバル化時代を 生き抜く研究者・技術者ケース スタディー～	安川電機みらい館館長 北九州市立大学特任教授 岡林 千夫 氏
第 110 回	山口	令和 2(2020)年 11月 12 日(木) 10:20～11:50	企業における研究と必要とされ る人材	LG Japan Lab 株式会社 Display 研究 室 高城 淳氏
第 111 回	徳島	令和 2(2020)年 11月 10 日(火) 17:00～18:50	海外特別講演会: Next Generation “Light” Research : Topological Photonics	テクニオン・イスラエル工科大学 / The Robert J. Shillman Distinguished Professor Prof. Mordechai Segev (Moti)
第 112 回	徳島	令和 3(2021)年 1月 14 日(木) 14:30～16:00	ヘッドハンターが語るコロナ/ ポストコロナ社会におけるキャ リア選択	K2 Partnering Solutions 株式会社 Executive Consultant 谷奥 恵美子 氏

◆第93回コンソーシアム人材セミナー（広島）：文部科学省

【開催方法】オンライン（Zoom）

【参加者】62人

【開催報告】

講師の鈴野氏は、筑波大学大学院にて博士(工学)を取得後、文部科学省に入省されました。科学技術・学術政策局国際交流官付に配属され、産学連携、宇宙開発、原子力安全等の業務に従事された後、現在は、同局政策課にて総括係長を併任する専門官として科学技術・学術政策の総合調整業務に従事されています。

セミナー冒頭では、学生時代の経験や、国と文部科学省の役割について触れ、将来のキャリアパスとしてアカデミアや民間企業の研究者・技術者等で悩んでいたが、博士課程後期学生時に経験した留学が転機となり、文部科学省が選択肢の一つとなったこと、知識集約型社会で活躍する人材をどのように育成していくのか、知識の基盤となる科学技術を振興・発展させるかという重要な役割を担っており、博士課程で培った課題解決能力や経験が活かされるべきだとお話いただきました。

セミナー後半では、経験された思い出深い業務等を紹介いただきました。JAXAを所管する文部科学省の役割の大きさ、入省直後より国際科学技術交流に関する業務に携わることが可能なことなど、業務の面白さをお伝えいただきました。

また、文部科学省の仕事である企画政策・立案・実行は、段階を踏んで進めていく形が研究の進め方と同じで、博士課程後期での経験があったからこそ今やっけていけているという想いがあり、博士人材の活躍の場があることを示していただきました。

そして、最後のディスカッションは、「我が国では、博士課程への入学者は減少傾向。優れた博士課程学生確保の課題及び今後の方策は・・・??？」というテーマについて、聴講者間で意見交換を行いました。

◆第94回コンソーシアム人材セミナー（広島）：EY新日本有限責任監査法人

【開催方法】オンライン（Zoom）

【参加者】55人

【開催報告】

講師の小知和氏は、慶応義塾大学大学院 政策・メディア研究科にて博士(学術)を取得後、同大学 先端生命科学研究所に在籍され、ライフサイエンス分野において、メタボローム解析を用いた生物の老化に関する基礎研究や教育業務に従事されました。その後、日本学術振興会の海外特別研究員として渡米、帰国後は、文部科学省 科学技術・学術政策研究所でキャリアを積み、現在は、EY新日本有限責任監査法人にて科学技術政策、産学連携、研究開発マネジメントを中心とした官公庁向けの提言案件などに関与されています。

セミナー冒頭では、EY新日本有限責任監査法人について、小知和氏が所属している国際公共チームで、「教育・科学技術」の領域をご担当されていることなどを紹介いただきました。そして、本セミナーのテーマにもある、デジタル・トランスフォーメーション(ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向へ変化させること)が科学技術・イノベーション政策に与える影響、またそれが進むことによって、Society 5.0(創造社会)の実現にどのように近づくのか、を医療分野におけるケーススタディを用いながら分かりやすく解説いただきました。また、聴講者に向けて、「幅広い価値の視点」、「ステークホルダーの視点」、「長期的志向」をもって研究活動に励んでほしいとのメッセージもありました。

そして、最後に小知和氏から「自分の研究がどのような価値を創造しているか、またその研究にとって重要なステークホルダーは？」という投げかけがあり、聴講者間でディスカッションを行いました。

◆第95回コンソーシアム人材セミナー（広島）：コニカミノルタ株式会社

【開催方法】オンライン（Zoom）

【参加者】48人

【開催報告】

講師の布施氏は、京都大学大学院 工学研究科修士課程修了後、松下電器産業株式会社に入社、アクセス系光伝送の開発業務等に約20年従事され、在職中に博士(工学)を取得されました。その後、コニカミノルタ株式会社へ転職し、現在は、開発統括本部 要素技術開発センターにて活躍されています。

セミナーでは、自己紹介や会社紹介をしていただいた後に、自身の研究ヒストリーを辿りながら、その中での成功談と失敗談をお話しいただきました。

成功談としては、自ら主体的に動いたことにより、責任感とプライドが生まれたことや社内外に競争相手がいたことにより、自己成長の牽引力となったこと、技術者として大きな自信(根っこの形成)を得たことなどが挙げられました。失敗談としては、その成功体験により、城(自らの技術領域)に籠ってしまったことによる柔軟な発想・活動の阻害、新たな分野に対する学びの拒絶、現実認識の遅れが発生し、技術者として貴重な成長機会を逸失したことを紹介いただきました。

そして、講演の締めくくりに、「研究者として成長し続けるためには、深さの追求や私の形成だけではなく、幅を育み、自己を俯瞰する知識が必要」というメッセージをいただきました。

◆第96回コンソーシアム人材セミナー（広島）：西日本電信電話株式会社

【開催方法】オンライン（Zoom）

【参加者】49人

【開催報告】

講師の浦谷氏は、広島大学大学院 先端物質科学研究科にて博士(理学)を取得後、ヤマハ株式会社で、約9年間商品開発業務に従事されました。その後、西日本電信電話株式会社へ転職され、現在はビジネスデザイン部にて、カタリストとして活躍していらっしゃいます。

セミナーでは、浦谷氏自身の経験をもとに、博士号取得者がキャリアチェンジする際の考え方3つをご紹介します。まず一つ目は、自分が活躍できる場所を増やすため、自分の強みを把握・強化し、強み同士を掛け算することにより、オンリーワンのポジション(独自性)を確立するということです。そして二つ目は、自分の意思(願望)を貫くのみだけではなく、自分の強みを意識し、周囲から求められるかどうか(対価が得られるかどうか)も併せて考えていけば、自分を求めてくれる顧客・仲間に出会える、つまり自分が生きる場所にたどり着けるということです。最後は、何事にも全力で取り組むことで、良い学びが得られるということです。ポイントとしては、今の研究以外にも複数の専門を持つことや、学んだことをアウトプットしPDCAサイクルを回すことの大切さをお話しいただきました。

最後のディスカッションタイムでは、自身で気づいていない自身の強みについて、各受講生が考えを深める時間となりました。

◆第97回コンソーシアム人材セミナー（広島）：丸善製薬株式会社

【開催方法】オンライン（Zoom）

【参加者】50人

【開催報告】

講師の西谷氏は、神戸大学大学院にて博士(農学)を取得後、同大学大学院 医学研究科の学術研究員として在籍、同大学農学部付助教を経て、現在は、丸善製薬株式会社 研究開発

本部 研究員として活躍されています。

セミナーでは、最初に、丸善製薬という会社は、化粧品・食品等の原料メーカーであり、植物からの抽出・精製技術を中心とし、付加価値をつけた原料を提供している会社であると紹介いただきました。

後半は、自身の職歴について、ライフイベントも交えてお話いただきました。博士課程後期時に研究についての面白さを体感し、博士号取得後は、それを続けていきたいという想いが今でも根底にあることや、結婚や子の誕生というライフイベントが起り、進路選択を迫られる分岐点に立った時、最も重視したことは「自分が何が好きなのか？」ということであることをお伝えいただきました。そして、現在、今まで研究してきた全てのことを組み合わせて新しい製品を開発するという業務に携わっており、大学から企業へというキャリア変遷について後悔はないと締めくくられました。

最後に、「皆さんは10年後に自分がどのようになっていたいか？」というディスカッションテーマについて、自分なりの考えを持って判断して欲しいとお話いただきました。

#### ◆第98回コンソーシアム人材セミナー（広島）：シュプリンガー・ジャパン株式会社

【開催方法】オンライン（Zoom）

【参加者】43人

【開催報告】

講師の中嶋氏は、東京大学大学院にて博士(理学)を取得後、その後、ドイツの「マックスプランク物理学研究所」での博士研究員、東京大学宇宙線研究所での特任助教を経て、現在は、学術出版社のシュプリンガー・ジャパン株式会社で学術論文誌編集者として活躍されています。

セミナーでは、最初に、自身の博士課程から現在に至るまでのキャリアパスについて3つの転機を挙げてご紹介いただきました。ポスドクとしてドイツの研究所へ渡独、在独中に任期付きの特任助教に内定し帰国、お子様誕生を契機にキャリアパスを再考し、現在のやりがいのある仕事へ就かれました。自身では行き当たりばったりの決断の連続だったとも、チャンス逃すことなく機敏に動いた結果だったとも振り返っておられました。

後半は、今の仕事について、著者の投稿、査読者による査読、編集、出版を経て読者に届くという論文が出版されるまでの流れ、そして、この流れの中でのパブリッシングエディターの多岐にわたる仕事についてご紹介いただきました。

最後に、PhDでの研究経験、論文執筆経験、英語・国際経験、データ解析が役に立っていること、民間企業とアカデミアとの違いについてご紹介があり、Rejectを恐れずにどんどん投稿しましょうと締めくくられました。ディスカッションは「もっとたくさん論文を投稿してもらうためには？」をテーマに行われ、ディスカッションから出たアイデアは参考にと話されていました。

#### ◆第99回コンソーシアム人材セミナー（広島）：株式会社データフォーシーズ

【開催方法】オンライン（Zoom）

【参加者】42人

【開催報告】

講師の和田氏は、東京工業大学大学院にて博士(工学)を取得後、株式会社データフォーシーズに入社されました。現在は、データサイエンティスト以外にもD4cアカデミー等で人材育成にも携わっておられます。

セミナーでは、最初に、データサイエンスの社会実装事例や、日本の現状について、「Society5.0の実現」を世界レベルの競争と捉えた時、日本は後れをとっており、オープン

データの整備は実施されているものの、データサイエンス人材育成の重要性・データ自国保持率に対する認識の低さを指摘され、国内においても地域格差があると説明いただきました。

後半は、データサイエンティストと大学での研究上必要になるスキルの類似点を例示され、研究活動を行っている限り文理問わずデータサイエンスの世界に入れる素養はあると紹介いただきました。また、色々な事に興味をもち、「ちゃんとやる事」が大事であり、その結果、キャリアについて見えてくるのではないかとお話しいただきました。

最後に、「私達は研究を通じて何を学び、その能力を用いて社会に何を還元すべきか？」というテーマについて、自分で自覚したことは何でも還元可能とご教示いただきました。

◆第100回コンソーシアム人材セミナー（広島）：倉敷紡績株式会社

【開催方法】オンライン（Zoom）

【参加者】36人

【開催報告】

講師の八木氏は、関西学院大学大学院理学研究科（物理化学専攻）の博士課程前期修了後、1982年に倉敷紡績株式会社に入社されました。学生時代にデータ解析に触れていたこともあり、入社後は情報開発部にてシステムエンジニアとして経験を積み、現在は、技術研究所長としてご活躍されています。

セミナーでは、まず、同社の研究・開発を一例として、企業での研究・開発についてご紹介いただきました。経営戦略として、事業化計画を10年後の成功に向け、バックキャストで進めていくことや、産学官連携で進めることにより、共同で技術課題・問題解決を解消することが可能になることなどをお話しいただきました。

セミナー後半では、博士課程の学生に期待することとして、高度な問題解決力・新たな価値を発見する力を挙げられ、学生時代に身につけたものが今の行動を支えていること、また、結果よりプロセスが人を育てるということを、ご自身の経験を交えつつ、お話しいただきました。

最後のグループディスカッションは、「Society5.0時代の新規事業提案」というテーマでしたが、技術面だけでの議論ではなく、各グループメンバーのスキルと長所を活かせるように、という点を意識し、聴講者が語り合いました。

◆第101回コンソーシアム人材セミナー（広島）：独立行政法人 酒類総合研究所

【開催方法】オンライン（Zoom）

【参加者】25人

【開催報告】

講師の岡田氏は、広島大学大学院理学研究科博士課程後期在学時、植物ホルモンのジベレリンの信号伝達の研究をされていました。博士課程後期修了後、酒類総合研究所でキャリアをスタートさせ、現在は研究職員としてご活躍されています。本学在学時には、教授や博士課程学生、企業を対象に当センターが実施していたキャリア関連の取材にも学生アルバイトとして関わり、その経験を通して自身のキャリアについて当時から深く考えていたと、自己紹介の中で触れていただきました。

セミナーでは、まず初めに、同研究所の主な業務として、酒類の分析や評価、研究等、酒類に関して多岐にわたる業務をご紹介いただきました。それから、岡田氏の担当業務としては、日本とEUのワインの関税撤廃等の提案や、ワイン添加物の申請手続き等に携わっており、世界各国で口に合う酒類や使用できる添加物も異なるので、グローバル化の中で各国の酒類への理解が大切であるとお話しいただきました。

最後に、「博士課程では研究はもちろん、いろいろな経験や活動にも挑戦してほしい」、  
「大学院で得た高い専門知識を活かし、人々の生活が豊かになるよう、客観的に物事を見て  
いく人材になってほしい」という講師からのメッセージをいただきました。

◆第102回コンソーシアム人材セミナー（広島）：株式会社日本製鉄

【開催方法】オンライン（Zoom）

【参加者】29人

【開催報告】

講師の西岡氏は、九州大学大学院工学研究科博士課程後期修了後、九州大学工学部の助手としてキャリアをスタートさせました。その後も大学教員として14年間活躍され、より実践に近い研究開発を行いたいという思いから、住友金属工業㈱(現日本製鉄㈱)に転職されました。

セミナーでは、まず始めに「日本製鉄」について、また、世界的に見ても成長を続けている「鉄鋼産業」についてお話しいただきました。同社は業界国内トップ、世界3位と世界の産業を支えている企業です。また、人＝財産という意識があり、全ての社員が自主的に役割をもち、その「チーム力・総合力で社会の発展へ貢献する」と強調されていました。

次に、西岡氏の業務についてお話しをいただきました。西岡氏は、高炉(鉄鉱石を熱して鉄を取り出す炉)の専門家です。特に、コンピュータで高炉数学モデルを用いて高炉内部の姿を推測・検討することを行っており、国家プロジェクトにも関わっておられます。

最後に、講師から学生へ「人との繋がりを大切に」というお言葉をいただきました。社会へ貢献するためには、一人では限界があります。学生のうちに人と繋がり、多くの経験をずる事が大切だとおっしゃっていました。

◆第103回コンソーシアム人材セミナー（広島）：公益財団法人中国地域創造研究センター

【開催方法】オンライン（Zoom）

【参加者】30人

【開催報告】

講師の吉原氏は、広島大学大学院工学研究科(博士課程前期)を修了後、一般企業への就職やイギリス留学を経て、中国地域創造研究センター(中国創研)に就職されました。その後、都市環境やまちづくりの専門家として従事されながら博士号を取得し、現在は、観光まちづくりをベースに中国創研の首席研究員としてご活躍されています。

中国創研は、行政・企業・経済団体・大学・地域の方々が抱えている課題に対し、解決方策の提案や支援等を行うという、シンクタンク・コンサルタント・コーディネート・プロデュースの役目を担い、地域密着型で中国地方の活力向上と継続的發展に寄与しています。

セミナー後半では、業務の一例として「広島のインバウンド戦略」についてご紹介いただきました。既存の統計資料や外国人観光客からのアンケートを示していただいた後、「広島県は他の観光地に比べ欧米人の観光客が多いが、広島での宿泊数が少ない」という現状を踏まえ、「コロナ収束後、外国人観光客が広島での滞在や消費を増やすためには何が必要か」というテーマについて参加者全員で考えを深めました。

最後に、「このような課題を考える際には、自分の専門性のみでなく、複数の専門性が必要になってくること」、また、「今の自分の研究がどのように地域・社会に還元できるか、考える事が大切」というお言葉をいただきました。

◆第104回コンソーシアム人材セミナー（広島）：ヤエガキ醗酵技研株式会社

【開催方法】オンライン（Zoom）

【参加者】25人

【開催報告】

講師の常氏は、中国の山東大学で微生物を専門に学び、広島大学大学院工学研究科(博士課程前期)への進学を機に、1989年に渡日されました。その後、広島大学大学院工学研究科(博士課程後期)へ進学し、工学博士の学位取得後、1995年ヤエガキ醗酵技研株式会社に就職されました。

セミナーでは、大学と企業での研究の違いや、常氏が携わっておられる業務内容などについてお話ししていただきました。学生時代は、「微生物によって、廃水を綺麗にする研究」に注力され、多くの論文を執筆されました。社会人となった後、学生時代に蓄積してきた常氏の知識・経験と、会社の発酵技術・分離精製技術を統合し、天然着色料や健康食品の製品開発などに取り組みされてきました。微生物の応用研究という意味では共通していますが、大学での研究は論文発表がゴールであり、企業での研究は製品開発がゴールであるということ、また、現在同社で次長職の常氏は、研究だけではなく、部下の研究指導や競争的資金の提案など、マネジメント業務もある、ということもご紹介いただきました。

大学以外でも研究は続けることができる、ということを示していただき、受講学生が進路を考えるにあたり、大変参考になるセミナーでした。

◆第105回コンソーシアム人材セミナー(広島): 株式会社富士通研究所

【開催方法】オンライン (Zoom)

【参加者】23人

【開催報告】

吉田氏は、広島大学大学院先端物質科学研究科(博士課程前期)を修了された後、(株)富士通研究所に入社されました。入社後は、半導体やOS、次世代メモリの開発などに携わってこられましたが、入社7年目に社内制度を活用してスタンフォード大学へ留学、その後東北大学大学院にて博士(工学)を取得されました。現在は、ICTシステム研究所のプロジェクトマネージャーとしてご活躍されています。

セミナーでは、まず同社の紹介と社内でのキャリア形成についてお話ししていただきました。同社は、社会課題解決のためにICTやAIなどの先端技術を用いて、人々の暮らしに貢献することをミッションとしています。ミッション達成のためには、自分自身でキャリアをデザインし、必要なスキルを日々磨くことが必要という考えのもと、社員が自律的に学べる場が多く提供されています。また、博士号取得者が働く現場のリアルとして、企業が求める能力やどのように評価されるかを紹介いただく中で、「博士号取得者は、新しい領域を切り開く力を身に着けた即戦力として期待している」こと、そして「近年技術開発速度は加速しているので、根幹の専門性だけでなく、2つ目、3つ目の専門性を素早く身に付けることも求められる」などのポイントも示していただきました。

それをふまえ、最後に、「アカデミックと企業の研究者に求められるものの違いとは？」というテーマで、参加者間でディスカッションをしました。

◆第106回コンソーシアム人材セミナー(広島): 大正製薬株式会社

【開催方法】オンライン (Zoom)

【参加者】25人

【開催報告】

講師の大澤氏は、新卒で大正製薬株式会社に入社され、薬の安全性(毒性)評価を担当されておりました。その後、社内の博士号取得支援制度を活用して、静岡県立大学にて食品栄養科学博士を取得され、現在は研究総務部で人事労務業務に携わっておられます。

セミナー前半では、製薬業界と大正製薬についてお話しいただきました。そして後半では、ご自身のキャリア紹介を通して、学位取得の意義などについても伝えていただきました。人々の健康と安全を担う製薬業界の研究者は、グローバル視点から見ると博士号が必須条件であり、高い専門性が求められるとのことでした。一方で、企業視点から見ると、高い専門性に加え、自ら考え動く主体性やコミュニケーション能力、チャレンジ精神を持った人材を求めているが、博士卒の学生には、更に、蓄積された経験則や勘、そして修士卒を超える応用力や思考力、後進への指導力なども期待しているとおっしゃっていました。また、大学と企業の違いとして、環境や研究スタイル、姿勢などを挙げながら、「わかる」を「できる」にする努力や主体性を学生のうちに身につけてほしいというメッセージがあり、セミナー全体を通して博士卒の学生への期待が伝わってきました。

◆第107回コンソーシアム人材セミナー(広島)：独立行政法人 国立科学博物館

【開催方法】オンライン (Zoom)

【参加者】27人

【開催報告】

講師の内尾氏は、広島大学理学部を卒業後、東京工業大学大学院 理工学研究科 地球惑星科学専攻へ進学され、海洋プレート周辺の地質調査を通して、生命進化の鍵となる海洋地域の環境の解明に取り組んでこられました。理学博士取得後、現在は国立科学博物館の科学系博物館イノベーションセンターにて、博物館が持つ資源を活用した新規提案・開発に携わっておられます。

セミナーでは、まず、科学博物館や科学コミュニケーターの役割、内尾氏の業務内容についてお話しいただきました。科学コミュニケーターは、楽しく分かりやすく科学を伝えるという役割を担っており、また、自分の専門分野以外の研究者とコミュニケーションをとりながらの業務もあり、博士課程後期で培ったスキル(伝える力・表現力・要約スキルなど)が最大限に活かされている、大学院時代の体験で無駄なことは無いとおっしゃっていました。

セミナー後半では、科学博物館で求められる資質や能力として、「コミュニケーション能力」と「新しいことにチャレンジする能力」を挙げられ、「大学院では、自分の専門を深めると同時に、専門以外の方と積極的に交流し、自分自身を発展させる時間にすることが大切」であるというメッセージをいただきました。

◆第108回コンソーシアム人材セミナー(広島)：フューチャー株式会社

【開催方法】オンライン (Zoom)

【参加者】26人

【開催報告】

統計学・データ解析をご専門とされる米谷氏は、筑波大学大学院にて社会工学博士を取得後、文部科学省 科学技術・学術政策研究所の任期付研究員として、政府統計や各種調査・分析に従事されました。その後、フューチャー(株)に入社されデータ分析のスペシャリストとしてご活躍されています。

セミナーでは、まず、フューチャー(株)についてご紹介いただきました。同社では、戦略的コンピューターシステムの設計・開発だけでなく運用まで企業に寄り添い、経営とITをデザインしています。例えば、ローソンの店頭で設置してあるマルチメディア端末「Loppi」や農業経営支援アプリ「Agrion」などを手掛けられています。

それから、米谷氏のご経歴や進路選択の経緯についてもご紹介いただきました。ご自身の経験から、「学生時代には専門を深め、没頭することも大事だが、過去に得たことは、あくまでもやりたいこと・なりたいことを実現するためのツールに過ぎない」、「進路・キャリア

アパスを考える時には、これまでの専門にこだわり過ぎず、やりたいこと・好きなことから考えてみるのも良い」というアドバイスをいただきました。

学生からの多くの質問に、米谷氏も「本音」で回答くださり、参加者が自分のやりたいこと・好きなことは何だろうと、改めて考える良い機会になりました。

#### ◆第109回コンソーシアム人材セミナー(山口)

【開催方法】オンライン (Zoom)

【接続数】21ヶ所

【開催報告】

冒頭の望月信介教授(キャリアパスデザイン推進室長)の挨拶に続き、本学工学部電気工学科の卒業生で、安川電機みらい館館長で北九州市立大学特任教授でもある岡林千夫氏により、「グローバル化時代の研究者・技術者 ～グローバル化時代を生き抜く研究者・技術者ケーススタディー～」と題して講演をいただきました。

講演では、ご自身の生い立ちから始まり、学生時代にシーケンス制御の講演を聞き安川電機に入社されたこと、入社後は直ちに産業用ロボット開発を担当したがそのころは揺籃期でありロボット事業はお荷物であったこと、その後ロボットの販売のためにスウェーデンやドイツに長年駐在されたことなどを、わかりやすく紹介されました。海外駐在では、当初英会話は苦手であったが、電話で聞いた英語の常とう句をノートに取ることで徐々に英語が上達したこと、販売拠点からの問合せに「できない」と回答したことをメモにとっておき、帰国後集中的にその実現に取り組んだことなど、ご自身の経験を生々しくご紹介いただきました。

産業用ロボットについては、食品加工や包装、乳牛からの搾乳、介護など、従来の機械製造関連以外の分野への展開が紹介され、今後の応用分野の広がりが見込まれました。興味深い話題が次々と提示される中、予定の時間となり、盛況のうちに終了しました。



#### ◆第110回コンソーシアム人材セミナー(山口)

【開催場所】常盤キャンパス 工学部 D11講義室

【参加者】50人

【開催報告】

冒頭、西形孝司教授(応用化学)から開会挨拶があり、引続いて北海道大学大学院博士後期課程出身で、現在LG Japan Lab株式会社 Display研究室の責任研究員である高城淳氏により、「企業における研究と必要とされる人材」と題した講演がありました。

講演では、ご自身の紹介の後、有機EL(エレクトロ・ルミネッセンス=電子発光素子)を用いたディスプレイの最近の動向(二画面のスマートフォン等)が紹介されました。続いて、企業では自分が企業の顔になって活躍する必要があるが博士の学位を持つことは大学などから信頼されるので成功につながることで、大学では学会発表などプレゼンや、研究がうまく行かないときでもくじけずチャレンジする精神の涵養が重要であること、等の説明がありました。その後、勤務先であるLG Displayの紹介があり、外資系企業と日本の企業との違いや、今後AI(人工知能)の進展により職業の淘汰も考えられる中でも技術者という職業は残るであろうということについても話されました。その後、博士の学位取得のメリットを列挙され、今や理科系では就職に困る



ことはまず無いことにも言及されました。締めくくりに、博士後期課程を送られた研究室の座右の銘であった「深は新なり」（研究を深く掘り進めると、新しいテーマが見つかる）という言葉が紹介され、講演は終了しました。

講演を受けて、西形教授から、現在韓国のドル箱になっている有機ELは、韓国企業が大量の博士を投入して製品化にこぎつけたものであり、日本でもこのような流れが必要、とのコメントがありました。時間の関係で時間中の質疑応答は1件のみとしたため、セミナー終了後も講師を囲んで質疑応答が続きました。

◆第111回コンソーシアム人材セミナー（徳島）

【開催方法】徳島大学コミュニケーション・ハブ及びオンライン(ZOOM)

【参加者】122人

【開催報告】

コロナ禍で国内外の講師を招いての講演会・講義の開催も難しい中、学生並びに若手研究者の知的好奇心を刺激する国際的な最先端研究に触れる機会として、トポロジカルフォトンクス\*の世界的な権威であるテクニオンーイスラエル工科大学のMordechai (Moti) Segev特別教授を講師とする講演会を、オンラインにて開催しました。90分を超える熱気と活気あふれる講演に学内外から122人に参加いただきました。新しい知識を求める学生と真理の探究に全身全霊を捧げる研究者とが共に学びあい語らう場が、徳島とイスラエルを結んでオンラインで実現しました。ウィズコロナ時代の大学キャンパスの新しいかたちを探る貴重な時間ともなりました。



イスラエルはスタートアップ大国として知られ、大学在学中の若者でも起業精神が極めて旺盛です。最先端の研究・技術開発、特に世界のデジタルトランスフォーメーションを牽引する国家であり、テクニオンーイスラエル工科大学は、今日までにノーベル化学賞受賞者を多数輩出し、サイエンスパワーハウスとして知られるイスラエル有数の大学です。

この講演会をきっかけとして、イスラエルにおける若手研究者による最先端研究への取り組みをモデルとする、徳島大学に相応しい新たな国際的な研究展開の取組みや若手研究人材育成システムの構築を目指します。

\*トポロジカルな現象を利用するフォトンクス（光工学、光の科学技術）。10数年前にスタートした、現在の光学分野で最も活発な研究分野の一つ。

◆第112回コンソーシアム人材セミナー（徳島）

【開催方法】オンライン(MS Teams)

【参加者】35人

【開催報告】

未来を拓く地方協奏プラットフォーム（HIRAKU）、研究支援・産官学連携センター、AWAサポートセンター、キャリア支援室が共催しまして、2021年1月14日、現在IT業界のヘッドハンターとしてご活躍されている、徳島大学卒業生の、谷奥恵美子氏を講師としてお招きし、「徳島大学キャリア支援セミナー2021（第112回コンソーシアム人材セミナー）～ヘッドハンターが語るコロナ／ポストコロナ社会におけるキャリア選択～」を開催いたしました。



今回の公演では、就活中だけでなく、低学年、就職活動が終わった学生の皆さんに、いつか自分のキャリア見直すときはもちろん、在学中からも取り組めるヒントなどを お話いただき、講演後は、参加者とのディスカッションも行われました。

## 8. 若手研究人材の意識啓発を促す取組

### 8-1. ウェブサイト

本事業の取組内容は、オリジナルウェブサイトHIRAKU(<https://hiraku.hiroshima-u.ac.jp/>)を構築し、イベント参加者募集や公募などのお知らせも随時掲載している。そこには、より詳細な内容や連携機関の情報を掲載している。また、若手研究者ポートフォリオ(HIRAKU-PF)にリンクしている。



### ◆ 広島大学グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成

URL: [https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc\\_yr](https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc_yr)



◆山口大学 URL : <https://kenkyu.yamaguchi-u.ac.jp/HIRAKU/>

### 未来を拓く地方協奏プラットフォーム(HIRAKU)

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業

この度、文部科学省の平成26年度科学技術人材育成賞補助事業「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」に、山口大学が共同実施機関として採択されました。  
「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」をテーマに、広島大学を代表機関として、共同実施機関に山口大学、徳島大学、連携機関には中四国の国立大学、公立大学、私立大学および多くの企業が参画して実施します。



長州五傑の礎 (山口大学吉田キャンパス)

→ 過去のトピックス一覧

#### トピックス

- 2021/2/12 [「未来を拓く地方協奏プラットフォーム第12回成果報告会」をオンライン開催](#)
- 2021/1/28 [「未来博士3分間コンペティション」2019と2020の受賞者が学長に報告](#)
- 2021/1/28 [第15期コンソーシアム教員の公募\(女性限定\)](#)
- 2020/12/02 [「未来博士3分間コンペティション2020\(オンライン\)」において 創成科学研究科\(工学\)ライフサイエンス専攻博士後期課程1年の山田耕輝さんが最優秀賞\(日本語部門\)とマツダ动画賞をダブル受賞](#)
- 2020/11/25 [「第110回コンソーシアム人材セミナーin山口」を開催しました](#)
- 2020/10/30 [「未来博士3分間コンペティション2020」\(オンライン\) 視聴者募集](#)  
[Invitation to Join the Audience for the HIRAKU 3MT Competition 2020 \(online\)](#)
- 2020/10/9 [「第110回コンソーシアム人材セミナーin山口」を開催します](#)

◆徳島大学 URL: <https://www.tokushima-u.ac.jp/ccr/cons/>



徳島大学  
研究支援・産官学連携センター  
Center for Research Administration & Collaboration

検索
English
徳島大学

お問い合わせ
交通アクセス
サイトマップ

トップ
センターの紹介
学外の方へ
学内の方へ
イベント・広報

徳島大学研究支援・産官学連携センター > 未来を拓く地方協奏プラットフォーム「HIRAKU」

## 未来を拓く地方協奏プラットフォーム



未来を拓く地方協奏プラットフォーム 科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業「次世代研究者育成プログラム」

**HIRAKU** 中国四国地方を中心とした次世代研究者育成プログラム「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の情報を発信しています。

HIRAKUトップ
プログラム概要
イベント
活動報告
公募情報
若手研究者の方へ
企業の方へ

今日	2021年 3月						台印刷	週	月	予定リスト
日	月	火	水	木	金	土				
28	3月1日	2	3	4	5	6				
7	8	9	10	11	12	13				
14	15	16	17	18	19	20			自分の日	
21	22	23	24	25	26	27				
28	29	30	31	4月1日	2	3				

+ Googleカレンダー

代表機関: 広島大学のイベントカレンダー



#### ◆ 新着情報

2021年3月3日開催

[未来を拓く地方協奏プラットフォーム 第12回成果報告会](#)

2021/02/16

- 47 -

8-2. 学生むけ小冊子 HIRAKU (2014 年度～2018 年度発行)

HIRAKU Vol. 1 (平成 27 (2015) 年 3 月発行)

博士課程後期を知る読本

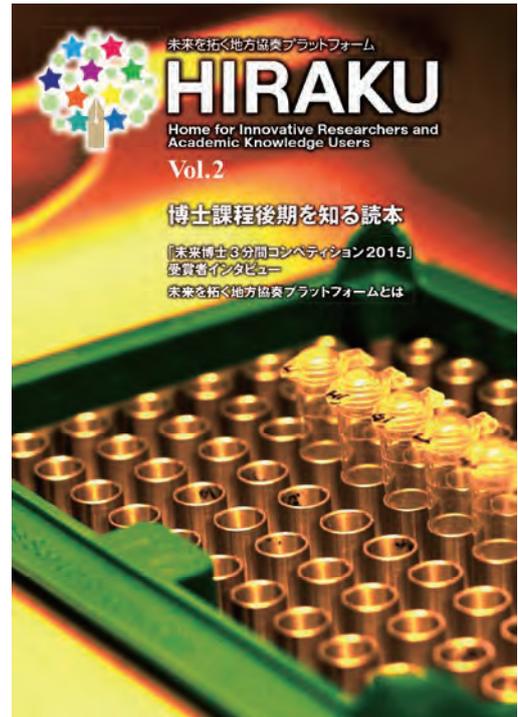
- ・次世代研究者インタビュー
- ・博士課程後期研究者 座談会
- ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



HIRAKU Vol. 2 (平成 28 (2016) 年 3 月 発行)

博士課程後期を知る読本

- ・ 「未来博士 3 分間コンペティション 2015」  
受賞者インタビュー
- ・ 未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



「未来博士 3 分間コンペティション 2015」受賞者インタビュー

次世代研究者育成プログラム  
「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」

若きインベーターが  
次世代を探求する。

前例のない挑戦は世界初のスタート！…3  
田崎 英祐  
鳥取大学 大学院 総合生命科学研究科 生物資源科学専攻 資源利用化学実習ⅡD

引き出しの数だけ生まれる可能性…7  
ソフィア スイダサリ  
広島大学 大学院 生物資源科学研究科 生物機能研究専攻 分子生体工学専攻ⅡD

手探りの試行錯誤から始まる謎解き…11  
三浦 香織  
国立広島大学 大学院 総合生命科学研究科 生物システム科学専攻ⅡD

たった一つの真理が探求者にも与えられる栄誉…15  
内田 貴之  
帝京大学 大学院 総合生命科学研究科 人間栄養科学専攻ⅡD

普遍的価値観を技術で逆転させる…19  
木下 拓矢  
広島大学 大学院 工学部 工学系 工学系ⅡD

未来博士 3 分間コンペティション 2015  
発表者紹介…23

未来を拓く地方協奏プラットフォームとは…31  
博士課程後期を知ろう…35

未来の博士たちが、自身の研究のビジョンと魅力を3分間で分かりやすく語る「未来博士 3分間コンペティション 2015」を2015年11月1日に開催しました。約300人の審査オーディエンスを前に、博士課程後期の学生37人が1校のブースで、持ち時間3分で研究内容のプレゼンテーションを行いました。「HIRAKU Vol.2」では、その受賞者にインタビューし、さらに研究内容を盛り下げてご紹介いたします。

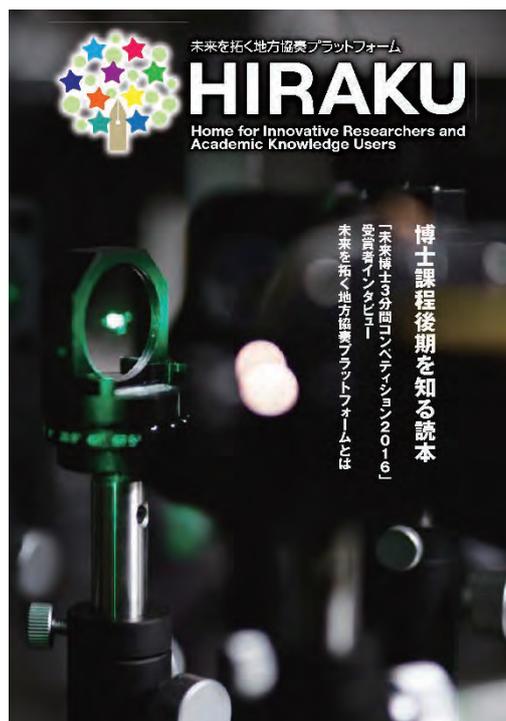
未来博士 3分間コンペティション 2015

長沼 毅 教授も  
3分間パフォーマンスに参戦!

HIRAKU Vol. 3 (平成 29 (2017) 年 3 月発行)

博士課程後期を知る読本

- ・「未来博士3分間コンペティション2016」  
受賞者インタビュー
- ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



次世代研究支援プログラム  
「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」

# 若きインベーターたちが 未知の世界に挑む。

「未来博士3分間コンペティション2016」受賞者インタビュー

田原秀雄  
声の謎を解き明かすため、テクノロジーの領域へ…3  
飯島聡志  
HIRAKU字根探訪

微生物は魔法の生物…7  
山口大学 工学部理工学研究所 地球環境工学研究室 D1  
トシ・アマノ・ガサリ

グローバル化と環境  
世界の自然環境と母国の大地を取り戻す…11  
広島大学 大学院環境学研究所 地球環境学研究室 D3  
タンチャイ マツタナ  
慶応義塾大学 (日本橋校)

既知の中に潜む一片の未知を追う…14  
早稲田大学 大学院総合生命科学研究科 食品システム工学研究室 D1  
赤澤 隆志

星夜秀 (英語版)

若くして死ぬ連中にもある海の霊長類たち…17  
広島大学 大学院生物圏科学研究所 水産増殖学研究室 D1  
宮野 哲史

企業賞 中外テラス賞  
テクノロジーの先端から、世界を俯瞰する…20  
徳島大学 大学院先端理工学教育院 応用情報学研究室 D3  
水野 孝彦

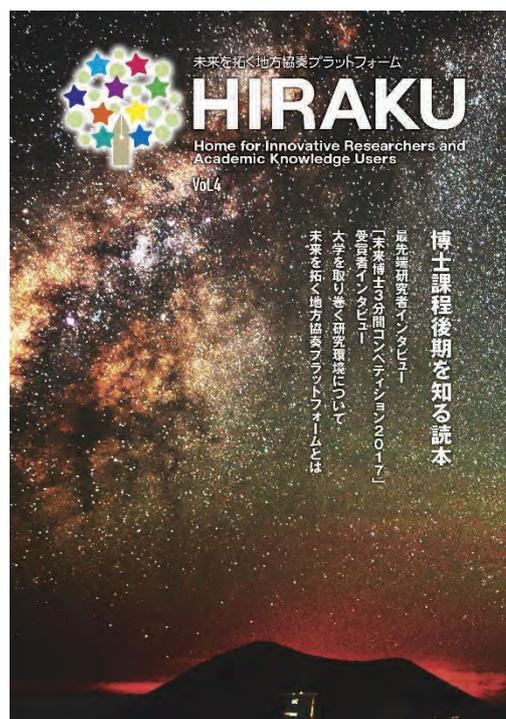
未来博士3分間コンペティション2016 発表者紹介…23  
未来を拓く地方協奏プラットフォームとは…32  
博士課程後期を知ろう…36

未来博士3分間コンペティション2016  
未来の博士たちが、自身の研究のビジョンと能力を3分間で分かりやすく語る「未来博士3分間コンペティション2016」を2016年9月24日に開催しました。約300人の審査オーディエンスの前に、博士課程後期の学生38人が1枚のスライド、持ち時間3分で研究内容のプレゼンテーションを行いました。  
『HIRAKU Vol.3』では、その受賞者にインタビューし、さらに研究内容を掘り下げてご紹介します。

## HIRAKU Vol. 4 (平成 30 (2018) 年 3 月発行)

### 博士課程後期を知る読本

- ・最先端研究者インタビュー
- ・「未来博士3分間コンペティション2017」受賞者インタビュー
- ・大学を取り巻く研究環境について
- ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



次世代研究者養成プログラム「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」

# 知の深奥を切り開く イノベーターたち。

最先端研究者インタビュー  
すばるの彼方に宇宙の始まりが見える…3

岡部 信広 助教  
広島大学 大学院 理学部 物理科学専攻

「未来博士3分間コンペティション2017」受賞者インタビュー  
田嶋 亮  
ゼロからヒーローを生み出すバイオ燃料の世界…7

広島大学 大学院 工学部 理工学研究室D3  
ノフィチャフテカ

HIRAKU 学長特別賞  
最先端のゲノム編集を用いて人に役立つトマトを生み出す…11

徳島大学 大学院 先端技術科学教育部 植物分子育種研究室D1  
上田 梨紗

グローバルチャレンジ賞  
薬剤師の視点から突き詰めるオーダーメイドな薬物治療…15

広島大学 大学院 医薬保健学研究所 生体機能分子動態学研究室D3  
藤野 智恵里

大学を取り巻く研究環境について  
多様性を生かして可能性を創出する…19

広島大学 リサーチ・アドミニストレーター  
久保 琢也さん

未来博士3分間コンペティション2017 発表者紹介…22

未来を拓く地方協奏プラットフォームとは…31

博士課程後期を知ろう…36

未来博士3分間コンペティション2017

未来の博士たちが、自身の研究のビジョンと魅力を3分間で分かりやすく語る「未来博士3分間コンペティション2017」を2017年11月25日に開催しました。約300人の審査オーディエンスを前に、博士課程後期の学生36人が1枚のスライド、持ち時間3分で研究内容のプレゼンテーションを行いました。

「HIRAKU Vol.4」では、その受賞者にインタビューし、さらに研究内容を掘り下げてご紹介します。

HIRAKU Vol. 5 (平成 31 (2019) 年 3 月 発行)

博士課程後期を知る読本

- ・ 若手研究者座談会
- ・ 「未来博士 3 分間コンペティション 2018」  
受賞者インタビュー
- ・ 未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



「そもそも研究の道を選ぶ際、先輩たちに悩みや迷いはなかったのだろうか?」「研究者として歩みだすと、いったいどんな毎日が待っているのだろうか?」そんな先輩たちの疑問に答えるため、次代を担う若手研究者 3 人が、実際に基づく研究者のリアルな日常について語ってくれました。

**研究価値を伝えること、それも重要なミッション**  
Q: まずは自己紹介を兼ねて皆さんの研究について教えてくださいいただけますか?  
**谷原** 私は学生の頃から生殖工学の研究をしていました。遺伝子改変ブタに取り組んでいます。マウスやラットと比較して、生理学的・病理学的・解剖学的にヒトに近いブタをつくりだすことで、創薬実験や治療法開発に貢献できればと思っています。  
**原** 私の場合は、細胞内部の核やミトコンドリアといっ

た細胞小器官の大きさや、細胞の大きさとの関係性が研究テーマです。それらを制御する仕組みと機能性を解明することを目指しています。  
**松本** 私は 17 世紀の英文学、中でも詩文学を専門としています。ヘンリー・ワotton という詩人を主に研究しているのですが、彼の双子の弟が錬金術師であったことから、産業革命以前の科学思想と文学との関わりなどについて研究しています。  
**原** 錬金術ですか?面白そうですね。英文学というよりも、私たちが足場を置く科



若手研究者座談会  
走り出すことで、本当の未来が見えてきた。…2  
徳島大学 大学院社会産業理工学研究部 谷原 史倫 特任助教  
山口大学 大学院創成科学研究科 (理学) 原 裕貴 助教  
広島大学 学術院 大学院文学研究科 松本 舞 助教

「未来博士 3 分間コンペティション 2018」受賞者インタビュー  
最優秀賞  
土壌汚染問題に植物のストレス耐性で解決を挑む…7  
愛媛大学 大学院総合農学研究科 生物資源利用学専攻 (香川大学配属) DI  
ホセイイン イムディシャバダット

グローバルチャレンジ賞  
細胞の未知の領域へ糖鎖の解明で挑む…11  
岐阜大学 大学院総合農学研究科 生物資源科学専攻 D2 浅野 早知

優秀賞 (日本語部門)  
患者の日常を取り戻すために新しい解を探す…15  
広島大学 大学院医歯薬保健学研究科 歯歯薬学専攻 D3 小島 玲子

企業賞 (マツダ賞)  
研究は自己表現の手段で共通言語でもある…18  
岡山大学 大学院環境生命科学研究科 環境科学専攻 D2 福岡 早紀

未来博士 3 分間コンペティション 2018\* 発表者紹介…21  
未来を拓く地方協奏プラットフォームとは…31  
博士課程後期を知ろう…36

※未来博士 3 分間コンペティション 2018  
未来の博士たちが、自身の研究のビジョンと魅力を 3 分間で分かりやすく語る「未来博士 3 分間コンペティション 2018」を 2018 年 9 月 15 日に開催しました。約 300 人の審査オーディエンスを前に、博士課程後期の学生 31 人が 1 枚のスライド、持ち時間 3 分で研究内容のプレゼンテーションを行いました。HIRAKU Vol.5 では、その受賞者にインタビューし、さらに研究内容を語り下げてご紹介いたします。

8-3. 学生むけ小冊子 HAKUSHI (2015年度, 2017年度発行)

# HAKUSHI

博士課程後期を知ろう



HIRAKU

博士課程後期への進学は、  
あなたに与えられた  
かけがえのないチャンス。  
かけがえのないチャンス。

2015年10月版

HAKUSHI 平成 25 (2015) 年 10 月版

博士課程後期への進学は、  
あなたに与えられたかけがえのないチャンス。

- ・進学フロー
- ・研究者インタビュー
- ・学生インタビュー
- ・あなたの疑問にお答えします!!

研究者となるチャンスを逃さないためには、十分な情報収集と早めの準備が必要です。  
下記のフローチャートを参考に、研究者としての未来を切り拓きましょう。







◆HIRAKU-PF が網羅する主な機能

(1) 若手研究者も企業等のPR情報発信および検索— eポートフォリオ機能 検索機能

HIRAKUに参画する多くの国公立大学の博士課程学生・若手研究者、幅広い連携企業・公的機関がユーザー登録することにより利用可能となる。ユーザーとして付与されたアカウントを基にeポートフォリオを作成し、若手研究者は自分のプロフィールや研究業績、PR動画やファイル、所属研究室が公開するSNSなどを、連携機関は機関概要、求める博士人材、活躍している博士人材などを登録し、HIRAKU-PF内で相互にアピールすることができる。若手研究者については氏名、所属機関やキーワードを利用して検索することができ、eポートフォリオを閲覧することができる。公開を希望する研究者は、自分のeポートフォリオをネット上に公開することも可能であり、全世界に向けて発信することができる。



(若手研究者)

eポートフォリオを作成し、基本情報に加え、自己アピール文、研究活動など積極的にPRできる。



YouTubeやmp4ファイルなどのPR動画を埋め込みで掲載することができる。



Facebook ページや Twitter, ブログなど SNS 情報を埋め込みで表示させることができる。

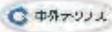


検索条件を入力・選択することにより、登録されている若手研究者を検索し、eポートフォリオを閲覧することができる。(ネット公開設定している研究者であれば、外部検索エンジンでも検索可能)



閲覧した eポートフォリオから、直接システム内でメッセージを送信することができる。

基本情報(Profile)

 中外テクノス

**企業・団体(Organization)**  
中外テクノス株式会社/Chugai Technos Corporation

**部署(Department)**  
環境事業本部 取締役事業本部長 村岡 裕彦

---

機関紹介・PR(About us)

**事業案内**  
Business

「スマートな技術でスマートな未来を」  
Smart technology, smart future.

電機・機械・情報・物理・化学・生物の各部門からなる中外テクノスの技術を融合し、多様なニーズにスマート(効果的・知

**専門調査** Investigation

環境、建設、工業あらゆる産業分野において、先進の調査技術を駆使した信頼性の高い調査データをご提供します。

- 環境調査・分析
- 環境微生物解析
- 環境特異性能試験
- 省エネ診断
- 構築物調査

(連携企業・公的機関)  
連携企業・公的機関のeポートフォリオでは、各機関の概要を掲載できる。既存のホームページがあれば、画像やリンクなどもそのまま添付可能。

活躍中の博士人材(Doctorate Holders)



博士(理学)  
花里 美紗穂

キラキラした目の子どもたちをもっと増やしたい



博士(工学)  
上野 裕子

全員が誰かのために頑張っていることで、頭張りたい



博士(生命科学)  
磯貝 里子

研究室から外へ出て出た「書く」仕事

求める人材(Expected Talents)

我々は高い夢と志を持って“ブレークスルー”に飽くまで挑戦をする人達と共創して、感動と夢

“ブレークスルー”とは、  
マツダにしかできないことを、考え抜く。  
マツダだからできることを、やり抜く。  
そこに、世界を牽引する走りが生まれる。

楽しく爽快な走りを生み出すにはパワフルなエンジンの開発が必要となり、一方で、環境に優しいクルマを生み出すには燃費性能を突き詰めなければならない。一般論としては、「相反する2つの最適なバランスを求める」という要諦が、技術の常識である。これに対しマツダは、飽くまでも常識にとらわれず、高い次元で両立させる選択を断行する。これが「ブレークスルー」の発想だ。バランスポイントを決めることは、ブレークスルーしないと決めたことに等しい。マツダならではの、自由に熟考を重ね進行するチャレンジスピリットから、世界に先がけたワクワクする走り、心奪われる美しいクルマが生み出されていく。その一点にしか、我々は喜びを見いださない。

●シニアエンジニアインタビュー  
クルマづくりで世界に貢献する。平野の街・広島でマツダの精神をカタチに。  
ロードスター主筆/山本修弘  
1989年の誕生以来、世界中の人々から愛されているマツダロードスター。現在も、より多くの感動と走る喜びを与えるべく進化を続けている。その主筆である山本修弘がエンジニアを目指した自身の原点とマツダに流れるスピリット。そして広島での開発にこだわり続ける理由や次代を担う就活生への想いを語る。  
マツダ(株)HPへリンク  
<http://www.mazda.com/ja/careers/newgraduate/interview/yamamoto/>

求める人材や実際に活躍している人材など、博士人材に特化して情報発信ができる。

## (2) シーズ・ニーズ情報の発信・閲覧・交流促進ー シーズ・ニーズ機能

連携機関やシニア教員は、研究技術、研究人材などの「ニーズ」を登録し、全研究者ユーザーに対して発信できる。若手研究者や若手教員は、自分たちが持つ研究技術やスキルを「シーズ」として登録し発信できる。それぞれが選択した公開先に含まれるユーザーは、ログイン後に表示されるトップページ(ポータル)画面において、シーズ・ニーズの一覧情報を確認し、関心を持った場合には表明することができる。情報を登録したユーザーは、関心を表明したユーザーを招待して掲示板を作成し、コミュニケーションを開始することもできる。

The screenshot shows the SEEDS & NEEDS Mathing Square portal. The top part displays a list of needs with columns for '期限(Due)', '詳細(Description)', and '更新日(Updated)'. Below this, a detailed view of a specific need is shown, including fields for '投稿日(Post Date)', '最終更新日時(Last Updated)', '掲載者(Posted by)', 'キーワード(Keyword)', '公開日(Release Date)', '期限(Deadline)', 'ステータス(Status)', and '関連リンク(URL)'. The detailed view also includes a 'ニーズ概要(NEEDS Description)' section with the text: '中外テクノス株式会社 60年以上の歴史を持つ、総合検査会社。そのバイオ部門でスキルを活かす、技術者を募集します'.

ポータル画面上に登録したシーズやニーズが掲示され、閲覧者は☆マークをクリックすることで関心を表明することができる。

## (3) インターンシップ/求人/イベント情報の発信・入手ー インターンシップ機能 イベント機能

博士課程学生・若手研究者向けに集約されたインターンシップや求人情報などの情報が閲覧できるだけでなく、応募や必要書類のアップロードも HIRAKU-PF 上から行うことができる。HIRAKU-PF 上から連携企業/公的機関へ直接質問も可能である。若手研究者からの提案が新しいインターンシップや共同研究につながる流れも期待される。

## (4) キャリア相談の依頼および面談実績の管理ー キャリア相談機能 支援情報機能

キャリア相談やインターンシップ等の相談も、HIRAKU-PF を通じて依頼・設定可能であり、過去の相談状況を蓄積できる。また、各種支援情報も提供される。

## (5) ユーザー同士の気軽なコミュニケーションー 掲示板機能 メッセージ機能

(1)で前述のとおり、ユーザーは検索後に閲覧した他ユーザーのeポートフォリオからメッセージ機能を使って直接連絡を取ることができる。また掲示板機能もあり、博士課程学生・若手研究者同士が掲示板グループを作成して若手研究者主体のイベント運営や情報交換などに利用したり、連携機関と若手研究者がシーズ・ニーズ機能などを通じて掲示板グループを作成し、共同研究のきっかけ作りに利用したり、研修やワークショップなどを通じてできたワーキンググループで掲示板グループを作成し課題・演習のフォローに活用したりすることができる。

★ イノベーション演習 テーマ①(7件7 item/未読(Unread)0件0 item)

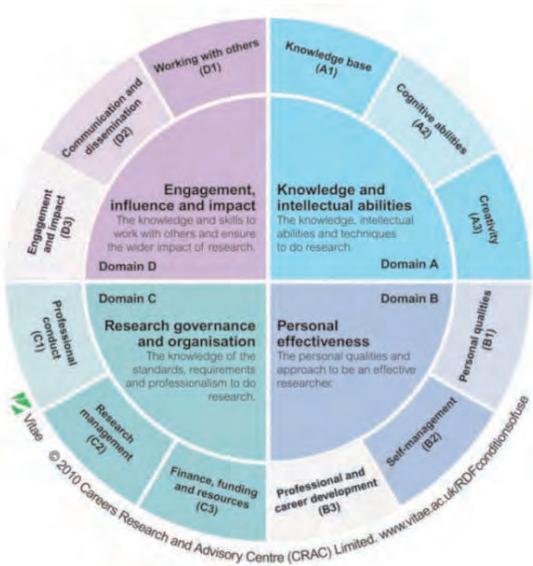
タイトル(Title)	投稿者(Posted by)	投稿数(No. of Posts)	最終更新日時(Last Updated)
10/21 フィールドワーク 写真共有	三浦敬吾	14	2017/11/15 09:42
(お知らせ) 第4回 11/17 演習開始前 放映案内	HIRAKU 運営協議会事務局 / HIRAKU Operating Council Office	1	2017/11/16 19:37
第3回 ワークショップを振り返って	イノベーション演習総講師 1	3	2017/11/24 17:36
広報についてお願い	HIRAKU 運営協議会事務局 / HIRAKU Operating Council Office	2	2017/11/27 12:33
第4回ワークショップ振り返り および 最終発表準備について	川野真紀	9	2017/12/13 22:32
最終発表スライド	HIRAKU 運営協議会事務局 / HIRAKU Operating Council Office	1	2017/12/18 15:08
成果発表会 開催報告(HP)およびコメント共有	HIRAKU 運営協議会事務局 / HIRAKU Operating Council Office	1	2017/12/28 16:24

平成 29(2017)年,平成 30(2018)年,令和元(2019)年に開講した「課題提案型ワークショップ(広島大学大学院共通科目・大学院共通科目「イノベーション演習」)」では,履修生と参加企業からなるワーキンググループおよび各グループの担当教員やアシスタントで掲示板を作成し,情報共有や演習時間外のコミュニケーションに活用した。

(6) 研究者として能力チェック&講座情報の入手ー 能力開発支援機能

高等教育機関,研究機関の博士研究者や博士課程在籍者の自己啓発,専門的能力開発及びキャリア開発を支援する英国の非営利の全国的ネットワーク組織 Vitae が作成した研究者の総合的な能力指標,“Researchers Development Framework(RDF)”が組み込まれている。研究者に必要とされる 63 項目の能力について 5 段階のステージで表示しているので,現状把握や将来の指針として参考にすることができる。自分がどのステージにいるのか自己診断し,その根拠を記録することで,自分の能力を客観的に捉えることができ,さらなる向上を目指して目標を設定することができる。また対象能力を養成することが可能な授業やプログラムを確認し,その参加状況を記録することも可能。自己診断結果は,記録した根拠や設定目標と併せてレポート出力ができる。自分の能力養成状況を定期的に診断して更新し続けることにより,自分の成長状況を時系列で確認することができる。

(Vitae RDF)



詳細項目確認&診断(RDF Descriptor Phases & Assessment): RDF全項目診断(Full RDF Skills)

RDF No. A2.5 能力(Skills) 問題解決力 (Problem solving)

各書き出しのフェーズが、あなたのロールに押し当てられる目標フェーズです。Phase(s) highlighted in orange is/are the skill level(s) you are expected to achieve.

フェーズ(Phase)				
0	1	2	3	4
自分の研究における基本テーマを特定し、基本的な研究上の問いと仮説を練っている。(Isolates basic themes of your research, formulates basic research questions and hypotheses.)	幅広い研究課題に対して解決策を練り上げて適用し、研究成果を効果的に分析、解釈している。(Formulates and applies solutions to a range of research problems and effectively analyses and interprets research results.)	研究の新たな動向、複雑な問い、広範な課題を見定め、大型のプロジェクトを立案している。(Identifies new trends, complex questions and broader problems; designs substantial projects. Challenges particular hypotheses and refines them in the light of results.)	物事の理解に大きく貢献することで研究課題によって、従来型の思考一般に異議を唱えている。(Leads a research agenda by making. Asks the pertinent questions and design thinking in general and progress research them)	

1  目標未達成の場合には自分の現在のフェーズを、達成目標上のフェーズを達成している場合には上書きして You can override this field, if you achieved phase is, what is displayed.

能力ごとに 5 段階のステージに分けて、期待される知識・行動・態度などが表示される。自分がどの段階にあるか自己診断する。

自己診断の根拠(エビデンス)、対象能力を伸ばすためのアクションプランを入力することができる。

アクションプラン(Action Plan) 中項目レベル(全5項目)で設定したいアクションプランがあれば入力して下さい。Please fill in your action plan/evidence per sub-domains if you

視野を広げ、幅広い課題解決に向けた大型のプロジェクトを立案できるよ。xxx関連企業におけるインターンシップに挑戦する(2018年8月まで)

エビデンス(Evidence) 目標フェーズを達成していると判断する場合、その証拠を入力して下さい。入力内容は自己評価レポートにも反映されます。Please fill in the evi can be exported in the Self-assessment Report.

ABCDの研究において、テーマを「=」に特定し、基本的な研究上の問いと仮説を練り、3分間コンペティション2015において企業賞XYZを受賞した。

3分間コンペ2015\_最優秀賞.mp4

### 能力養成科目/プログラム詳細(Recommended Class/Program Description)

能力養成科目/プログラムの詳細です。一番下までスクロールすると、養成が期待される能力の一覧を確認することができます。the class/program. Scroll down to the bottom to check the full list of RDF skills expected to be developed by taking this class/pr this system.

#### 長期インターンシップ

講師(Instructor)	三須敬幸
所属機関(Univ./Org.)	広島大学(Hiroshima University)
機関内課室コード(Class Code)	B5025001
所属科局(Faculty/Dept.)	グローバルキャリアデザインセンター
所属期(Semester/Term)	2016年度
曜日・時間(Day/Period)	集中

対象能力を養成することが可能な講座、プログラムなどが登録されており、参加・受講を記録していくことができる。



## 9-2. 博士人材キャリア相談室

センターのスタッフ等と一緒に自身のキャリア設計について考え、今後の進路に関する不安を一つ一つ解決する支援をしている。たとえば、就職を希望する博士課程後期学生や若手研究者には、履歴書を作成させ、履歴書の構成や文章の流れなどを指導したり、面接試験にあたっての基本的なマナーや礼儀作法、あるいは企業出身のコーディネーターや幅広い分野の専門家の先生と実践形式の面接指導などを行ったりしている。

※例:キャリア設計相談, 進路・進学相談, 履歴書作成・面接指導, プレゼンテーション能力の向上

【相談日時】 随時（但し、予約優先）

【場 所】 グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成（広島大学学生プラザ 2F）

【予 約】 「若手研究者ポートフォリオ（HIRAKU-PF）」面談機能を利用して予約すること。

【問合せ先】 グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成

E-MAIL [wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp](mailto:wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp)

URL [https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc\\_yr/consultation](https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc_yr/consultation)

平成 26（2014）年度 11 月以降相談者延べ数 110 名

平成 27（2015）年度相談者延べ数 213 名

平成 28（2016）年度相談者延べ人数 196 名

平成 29（2017）年度相談者延べ人数 175 名

平成 30（2018）年度相談者延べ人数 157 名

令和 元（2019）年度相談者延べ人数 167 名

令和 2（2020）年度（1 月末日現在）相談者延べ人数 96 名

## 10. 代表機関および共同実施機関独自の取組

### 10-1. 広島大学独自の取組

#### 10-1-1. 広島大学特別研究員 成果報告会

広島大学では、本学での学位取得者を広島大学特別研究員として採用し、多様な場で活躍する人材として育成する制度を平成13(2001)年度から実施してきた。本学の若手人材育成のための制度を見直し、博士人材のキャリアスタート支援としてより良い制度とするために、この名称での学内公募は令和元(2019)年度第2期で終了することとなった。そこで、この制度を経て社会で活躍している方々に声をかけ、現職特別研究員による研究実績とキャリア形成の取組についての報告と、広島大学特別研究員OB/OGと交流する座談会から構成する最終成果報告会を、オンラインで開催した。

#### (1) 広島大学特別研究員 オンライン座談会

～ポストドクターのキャリア選択～

(第9回 広島大学特別研究員成果報告会)

【日 時】 令和2(2020)年8月28日(金) 15:00～17:00

【開催方法】 オンライン (Zoom)

【参加者】 28名

【概要】

オープニングとして、グローバルキャリアデザインセンター副センター長 三須 敏幸教授より、広島大学特別研究員の採用実績、長期インターンシップ派遣実績、OB/OGの任期満了後の進路などについてお話しいただいた。その後、令和元(2019)年度第2期の広島大学特別研究員である CHOWDHURY MOIYEN ZALAL氏、松田 太希氏、TRAN ANH DUC氏、RYU NALAE氏、エン 智群氏、山中 治氏、RAKHIMUZZAMAN MD氏の7名から1年間の成果報告、そして、OB/OGである Motaz Sabri氏(株式会社 Ridge-I)、山田 朋範氏(特許業務法人 前田特許事務所)、戴 容秦思氏(摂南大学農学部 講師)の3名から、在職当時の研究と現在の仕事(研究)、その後のキャリアパス、後輩への激励メッセージなどについてお話ししていただいた。

本イベントの中で、現職特別研究員とOB/OGとの交流時間を40分間設け(20分×2回)、現職特別研究員とOB/OGが隔たりなく、キャリアプランや研究活動など、「ポストドクターのキャリア選択」をテーマに、それぞれの率直な意見を交わすことができた。

最後のクロージングでは、採用時の辞令交付式や様々なイベント時の写真をスライドショーで投影し、三須教授から全員へ激励の言葉が送られた。

広島大学特別研究員 オンライン座談会  
～ポストドクターのキャリア選択～

<日時> 2020年8月28日(金)15:00～17:00(予定)  
<開催方法> オンライン(Zoom)  
<プログラム>  
15:00 オープニング  
15:15 現職特別研究員(7名)のプレゼンテーション  
15:45 意見交換(1回目)  
テーマ: 現職特別研究員からOB/OGへの質問  
16:05 OB・OG(3名)のプレゼンテーション  
① Motaz Sabriさん ② 山田 朋範さん ③ 戴 容秦思さん  
16:20 意見交換(2回目)  
テーマ: 皆さんの夢は何ですか? これからの目標とキャリア  
16:40 全体交流会  
16:55 クロージング

ONLINE SYMPOSIUM BY HIROSHIMA UNIVERSITY SPECIAL POSTDOCTORAL RESEARCHERS  
POSTDOCTORAL FELLOWS AND THEIR CAREER CHOICES

Date & Time : Friday, August 28th, 2020 15:00 - 17:00  
Venue : Online(Zoom)  
SCHEDULE :  
15:00 Opening  
15:15 Presentations by the latest SPRs (7 presentations)  
15:45 Breakout Rooms; Session #1  
Topic : Questions from the Latest SPRs to the Former SPRs  
16:05 Presentations by the former SPRs (3 presentations)  
1. Motaz Sabri-san 2. YAMADA Tomonori-san 3. Jessy Rongqinsi Dai-san  
16:20 Breakout Rooms; Session #2  
Topic : What is your Dream about the Future Goal and Career?  
16:40 Exchange Meeting with All Participants  
16:55 Closing



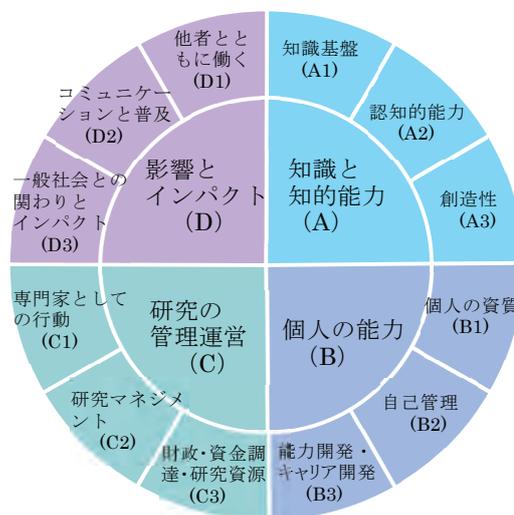
## 10-1-2. HIRAKU 実践プログラム

グローバルキャリアデザインセンターでは、研究キャリアの初期段階にある博士課程後期学生(D)及び若手研究者(PD)を対象に、新分野に挑戦する活力のある研究人材の育成を目的としたプログラム(HIRAKU 実践プログラム)を提供しています。

この実践プログラムでは、若手研究者が社会の多方面で活躍するための能力(右図のドメイン(A)~(D))を身につけることができるよう、グローバルキャリアデザインセンターが担当している大学院共通科目や各研究科が開設する科目・独自セミナー等を用意しています。

本センターが提供する「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の基幹ITシステムである若手研究者ポートフォリオHIRAKU-PF(\*)を利用して若手研究人材としての能力を自己チェックし、必要な能力領域の科目を受講することで、自身の能力向上を図ることができます。

また、グローバルキャリアデザインセンターでは、若手研究者のキャリア形成に必要な指導・助言も受けることができる体制を整えていますので、併せて活用してください。



Vitae ©2016 Careers Research Advisory Centre (CRAC) Limited.

(\*) [https://hiraku.hiroshima-u.ac.jp/younger\\_platform/](https://hiraku.hiroshima-u.ac.jp/younger_platform/)

### ◆令和元(2020)年度実践プログラム

#### ① 創造性の発揮 - 知識と知的能力(ドメインA)

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講期	参考
イノベーション演習	大学院共通教育(博士課程後期・博士課程)	牧野 恵美	3T	詳細は第6章参照
データサイエンティスト養成	大学院共通教育(博士課程後期・博士課程)	三須 敏幸	前期/集中	

#### ② キャリア開発と自己管理能力の向上 - 個人の能力(ドメインB)

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講期	参考
高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	大学院共通教育(博士課程後期・博士課程)	三須 敏幸	2T・4T	コンソーシアム人材セミナーとして実施。 詳細は第7章参照
高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント<オンデマンド>	大学院共通教育(博士課程後期・博士課程)	三須 敏幸	2T	
長期インターンシップ	大学院共通教育(博士課程後期・博士課程)	三須 敏幸	前期・後期/集中	詳細は第4章参照
理工系キャリアマネジメント	大学院共通教育(博士課程前期)	原田 淳	前期/集中	
人文社会系キャリアマネジメント	大学院共通教育(博士課程前期)	森 玲子	3T	
人文社会系キャリアマネジメント<オンデマンド>	大学院共通教育(博士課程前期)	森 玲子	2T/集中	
ストレスマネジメント	大学院共通教育(博士課程前期)	原田 淳	前期/集中・4T	

③ 専門家としての誠実性と管理能力の向上－研究の運営管理（ドメインC）

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講期	参 考
研究の心得～プロフェッショナルになるために～	グローバルキャリアデザインセンター	三須 敏幸	令和2(2020)年度は開講なし	

④ 他者との協働と影響力の向上－影響とインパクト（ドメインD）

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講期	参 考
リーダーシップ手法 <日本語・英語>	大学院共通教育(博士課程後期・博士課程)	三須 敏幸	前期/集中	
未来博士3分間コンペティション	グローバルキャリアデザインセンター		令和2(2020)年11月21日	詳細は第6章参照

⑤ 上記以外の奨励科目（主としてドメインD）

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講期	参 考
オンデマンド英語論文ワークショップ	ライティングセンター	河本 健	随時	
学術文章の書き方とその指導法 - 大学教員を目指して -	ライティングセンター	柳澤 浩哉	後期	
大学教員養成講座	人間社会科学研究科	丸山 恭司	2T・4T/集中	
コミュニケーション能力開発	統合生命科学研究科	中ノ 三弥子	4T	
Developing Designing Ability	先進理工系科学研究科	藤原 章正	前期	
知的財産及び財務・会計論	先進理工系科学研究科	伊藤 孝夫	3T	
技術移転論	先進理工系科学研究科	伊藤 孝夫	2T	
技術戦略論	先進理工系科学研究科	伊藤 孝夫	4T	
MOT とベンチャービジネス論/ MOT and Venture Business	先進理工系科学研究科	伊藤 孝夫	1T	
プロテオミクス実験法・同実習	統合生命科学研究科	泉 俊輔	2T/集中	
ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム	先進理工系科学研究科		令和2(2020)年12月9～11日	詳細は第6章参照

### 10-1-3. 研究者等紹介

HIRAKU オリジナルウェブサイト, 広島大学グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成担当ウェブサイト, それぞれに取材コーナーを設けている。

各取材コーナーには, 広島大学学生, 若手研究員が取材・記事作成を行った, 様々な視点からのインタビュー記事を掲載している。

#### (1) 若手研究者の研究紹介

第 26 回 令和 2 (2020) 年 1 月 6 日取材・令和 2 (2020) 年 6 月 29 日 HP 掲載  
広島大学大学院 (大学院先進理工系科学研究科) 伊森 晋平 准教授

#### 「統計解析の手法に関する研究を続けて —数理統計学を用いたモデル選択・予測—」

数理統計学とは

あらゆる分野への応用

今後取り組むべき問題—新たなデータ構造

研究者を志したきっかけ

広島大学の外でのキャリア, その経験から感じたこと

研究を進める際の心がけ

学生へのメッセージ

取材者感想

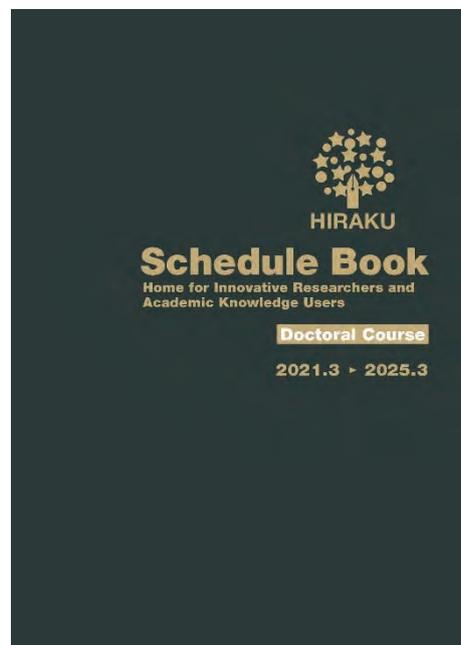


#### 10-1-4. 4年手帳

博士課程後期の心得，進路についてのプランニング，大学で行われている学生支援等について掲載している。博士課程後期の時間を有意義に過ごすために必要な内容を盛り込んだ手帳である。新D1全員に配付している。

Doctoral Course Schedule Book 2021. 3 ⇒ 2025. 3  
(令和3(2021)年3月発行)

- ・ 令和3(2021)年3月から令和7(2025)年3月までの  
カレンダー・スケジュール帳
- ・ 博士課程後期の心得
- ・ 研究に際して重要なこと
- ・ 博士課程後期の学生支援
- ・ 税金・確定申告・健康保険・年金
- ・ Reference for Hiroshima University's International  
Students



## 10-2. 山口大学独自の取組

### 10-2-1. 実施体制

山口大学においては、広島大学を中心とするコンソーシアム運営協議会で検討された事項を着実に実施するため、平成 27（2015）年度に「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業に係る国立大学法人山口大学実行委員会」（以下、「学内実行委員会」と呼ぶ。）を設置した（図 1）。以降、事業はこの学内実行委員会の下で実施している。

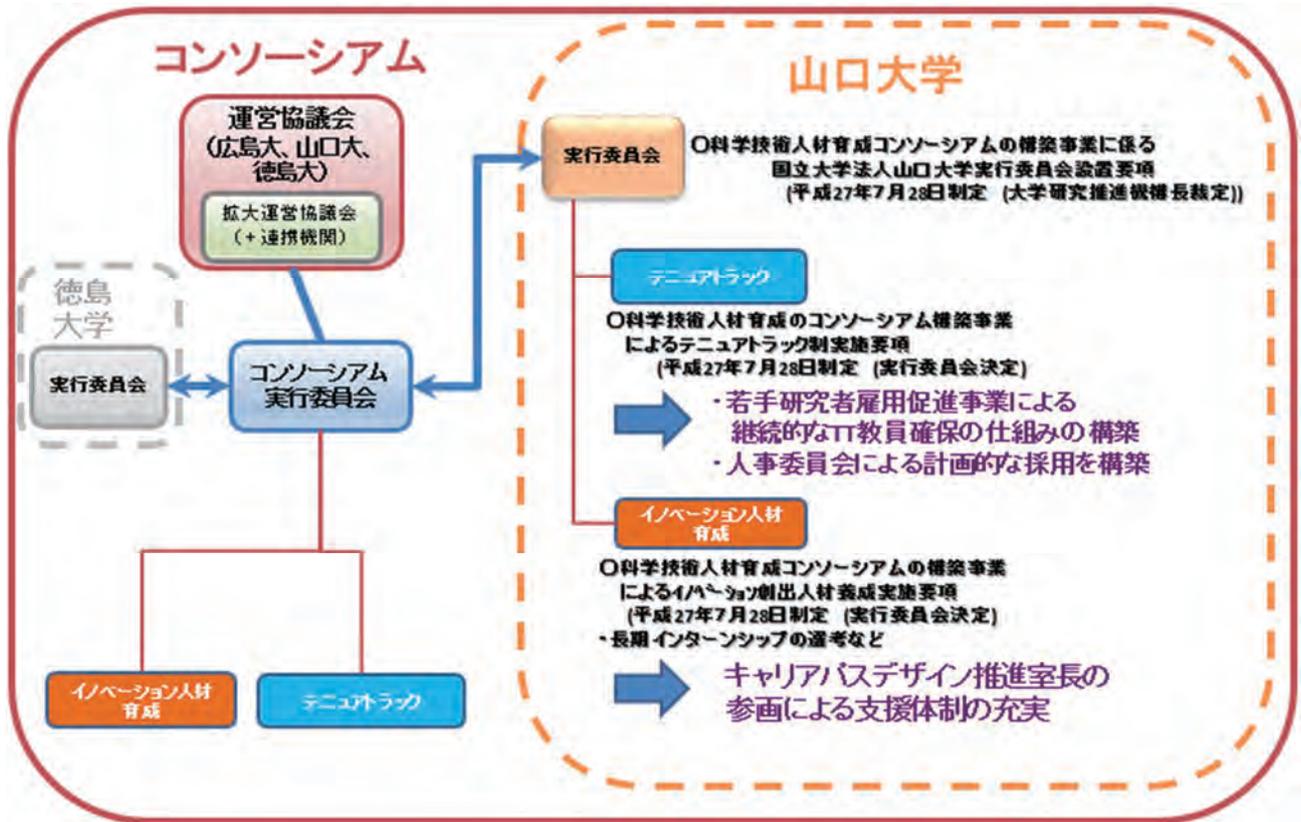


図 1 山口大学における本事業の実施体制

### 10-2-2. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム

#### (1) 定着に向けた学内体制の整備

##### ◆長期インターンシップの共通科目化

山口大学では平成 28（2016）年度に理系大学院を再編成し、創成科学研究科を設置した。この研究科では、共通科目として長期インターンシップが設定されている。またこの研究科では、CPOT（実践教育プログラム）やイノベーション道場「志」（アントレプレナー工房）を立ち上げており、本事業としては今まで同様、今後もこの研究科との連携をはかり、イノベーション人材の養成を定着させていく。

##### ◆キャリアパスデザイン推進室との連携

前述の研究科の再編成に合わせ、従来理工学研究科に所属し大学院生の進路開拓の支援をしていたキャリアパス形成支援室が、創成科学研究科所属のキャリアパスデザイン推進室となり、同様の業務を行なっている。キャリアパスデザイン推進室長は学内実行委員会のメンバーでもあり、緊密な連携を可能としている。

(2) 長期インターンシップ

令和元（2019）年度に応募があった1名について、同年度末（2020年3月）に産業技術総合研究所とのマッチングが成立し、2020年9月に1か月間の派遣を実施した。新規の長期インターンシップ希望者の募集については、新型コロナの感染拡大を受けて、令和2（2020）年度の募集を見合わせた（表1）。

表1 山口大学の長期インターンシップ派遣実績

年度	実績数		派遣期間		派遣された学生・研究者										受入れ先							
	計画数	応募者数	採用数	2か月程度以内	3か月程度以上	学年(派遣時)内訳				所属研究科内訳			性別内訳		国籍内訳		受入先セクター内訳			受入先国別内訳		
						D1	D2	D3	PD以上	理工農系	医学系	人社会系	男性	女性	日本人	留学生	民間企業			国内	海外	
																	東証一部上場	未上場・ベンチャー	民間小計			公的機関・独法など
平成27年度	2	3	2	2		2				2			2				1	1	1	2		
平成28年度	2	4	3	3		1	1	1		2		1	3		1	2		1	1	2	3	
平成29年度	2	3	3	3			1	2		1		2	2	1	1	2	1	2	3		3	
平成30年度	2	3	3	3		1			2	2		1	1	2		3		2	2	1	3	
令和元年度	2	1	0																			
令和2年度	2	注1	1	1			1			1			1							1	1	
令和3年度	2																					

注1: 令和2年度は、新型コロナ感染拡大を受けて新規募集は見合わせし、令和元年度に応募し同年度末にマッチングが成立した1名の派遣のみ実施した。

(3) その他の取組 : 「山口大学大学院生研究手帳」の配布

博士課程学生がイノベーション創出人材となる一助としてコンソーシアム全体で手帳を作成しているが、これを補完するため、本学では博士課程学生（特に創成科学研究科の学生）の科目履修やキャリアデザイン関係科目について、きめ細かにガイダンスするための冊子、「山口大学大学院生研究手帳」を制作し配布している（図2、図3、表2）。



図2 「山口大学大学院生研究手帳」の表紙 5年分

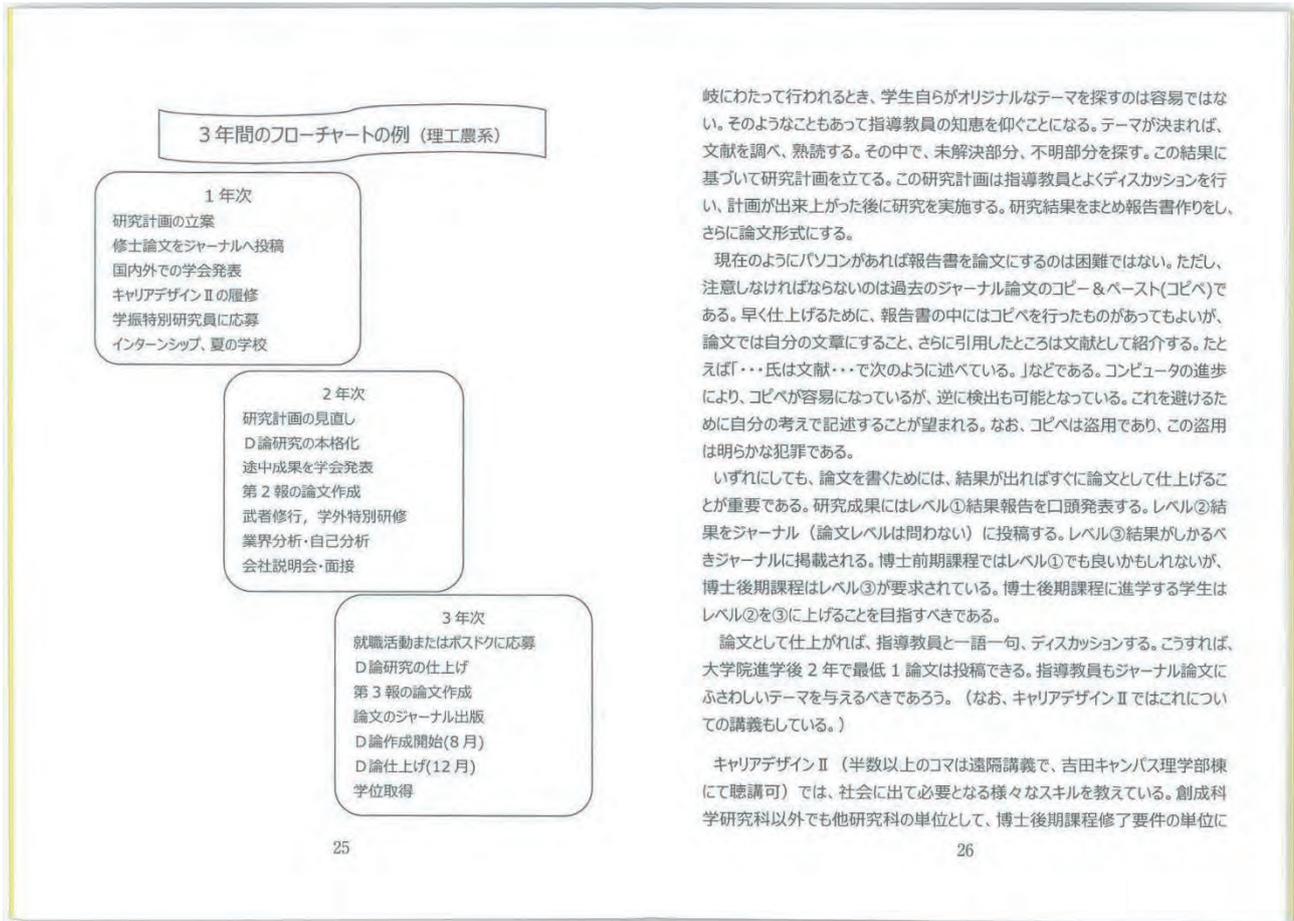


図3 「山口大学大学院生研究手帳」の中身の一部

表2 「山口大学大学院生研究手帳」の配布先

年度	印刷部数	配布部数			配布先キャンパス内訳																
		うち学生への配布数	うち教員への配布数	学生(創成科学研究科=理・農のみ)	吉田キャンパス										常盤キャンパス						
					学生(東アジア研究科=Dのみの大学院)					教員					職員・その他	吉田キャンパス小計	学生		職員	常盤キャンパス小計	
					D1全員	M1全員	D2以上	D1全員	D2以上	理	農	時間学・総科セ	東アジア等	D1			M1				
平成28年度	1000	732	439	281	9	135	24				68	33	4	4	10	287	19	252	172	2	445
平成29年度	800	454	454		8	113	2	12	6	20	10			12	10	193	24	56	175	6	261
平成30年度	700	552	552		7	115		15		11	10				27	185	22	314	25	6	367
令和元年度	700	217	217		24	111		14		1	3				25	178	33			6	39
令和2年度	700	490	471	19	8	122		20		3	5			6	164	35	286	1	4		326

### 10-2-3. テニユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム

#### (1) 定着に向けた学内体制の整備

##### ◆若手研究者雇用促進事業の強化

本学では、平成 27 (2015) 年度に、補助金によらない本学独自のテニユアトラック (TT) 教員の雇用事業を開始している (表 3★の 5 名)。平成 28 (2016) 年度から、この制度によるスタート研究費支援や女性教員が採用された場合の部局へのインセンティブ付与など制度を一層整備・強化している。

##### ◆若手研究者の海外研修等事業

TT 制度とは別に、本学予算による若手研究者の海外研修等の制度 (若手研究者短期海外派遣プロジェクト) で若手研究者を海外に派遣した (令和 2 (2020) 年度はコロナ禍を受けて中止)。

#### (2) テニユアトラック教員採用実績

表 3 に本学において各事業で採用したテニユアトラック教員数を示す。

コンソーシアム事業では、表 3 の●に示すように、平成 27 (2015) 年度の 2 名を皮切りに、平成 28 (2016) 年度以降令和 2 (2020) 年度まで各 1 名採用した。この中では、平成 28 (2016) 年度は女性限定公募による採用であった。一方、平成 27 (2015) 年度に採用した 2 名は既にテニユアを獲得した。

令和 2 (2020) 年度からは、新たに文部科学省「世界で活躍できる研究者戦略育成事業 (プログラム名: 地方協奏による世界トップクラスの研究者育成 (HIRAKU-Global))」によるテニユアトラック教員の育成 (表 3 の□) も始まっている。

表 3 山口大学のテニユアトラック教員の採用実績

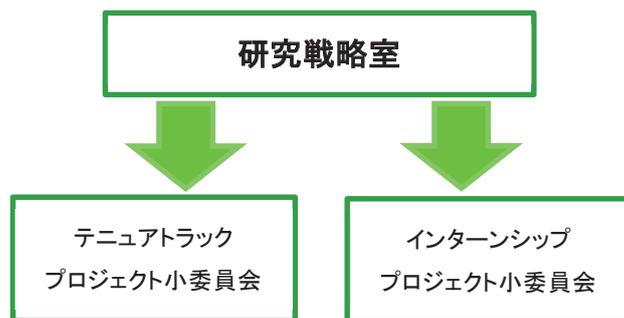
現役TT教員のセルに着色。Wは女性教員を、( )は元TT教員のテニユア獲得日や転出年月を示す。										
所属部局	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
医学系研究科	1名 (平成28年7月テニユア獲得) ◆		1名 (平成28年3月転出) ▲					1名 (平成30年2月転出) ★		1名(令和3年3月1日着任) ●
創成科学研究科(理)		1名 (平成29年4月テニユア獲得) ■			1名(令和2年4月テニユア獲得) ●	1名(令和2年4月テニユア獲得) ★				
創成科学研究科(工)	1名 (平成29年1月テニユア獲得) ◆	1名 (平成29年10月テニユア獲得) ■	1名 (平成28年3月転出) ▲				1名 ●	1名 ●	1名 ●	1名 W ●
創成科学研究科(農)			1名 (平成30年8月テニユア獲得) ▲			1名 W ●			1名 ●	1名 ★
共同獣医学部		1名 (平成29年12月テニユア獲得) W ■			1名(令和2年2月テニユア獲得) ●					1名(令和2年4月1日着任) □
時間学研究所					1名(令和2年10月テニユア獲得) ★			1名 ●	1名 ★	
年次別採用者数	2	3	3		3	2	2	2	2	2
採用者数累計	2	5	8	8	11	13	15	17	19	21
テニユアトラック普及・定着事業による採用 ◆H23年度公募事業による採用    ■H24年度公募事業による採用    ▲H24年度(後期)公募事業による採用 ●コンソーシアム事業による採用    ★自主財源による採用    □世界で活躍できる研究者戦略育成事業(HIRAKU-Global)の育成対象教員										

### 10-3. 徳島大学独自の取組

#### 10-3-1. 実施体制

事業開始とともに本学の研究戦略室（室長＝研究担当理事・副学長）において、若手研究者の自立・流動促進プログラムを推進する為の「テニュアトラックプロジェクト小委員会」と、イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラムを推進する為の「インターンシッププロジェクト小委員会」を設置する等、本事業を推進する体制を整備し、テニュアトラック教員の採用や長期インターンシップの派遣に向けて活動を実施している。

[学内実施体制]



#### 10-3-2. 若手研究者の自立・流動促進プログラム

テニュアトラック教員の公募に際しては、大学全体として計画的に取組むため、研究戦略室会議にて、各部局からの採用提案を受けた上で、最も適切と考えられる部局で公募を実施することとしている。

令和2（2020）年度は、4月にテニュアトラック教員（創薬理論化学、女性）を1名採用した（右写真は、着任報告の様子）。



また、令和3（2021）年度4月以降に採用するテニュアトラック教員の分野について、研究戦略室内で検討した結果、情報ネットワーク分野で1名公募することが決定した。

なお、テニュアトラック教員の公募に際しては、特に次の点に配慮している。

- ・ JREC-IN, コンソーシアム HP, 本学 HP 等に、英語及び日本語の公募要領を掲載するとともに、公募期間は原則2か月を確保するよう努力することで、幅広い人材を募る。
- ・ 公募要領に女性研究者への支援を明記することにより、女性研究者の応募を促す。
- ・ 公募期間の長期確保、英語版公募要領の作成、質問への英語対応等外国人研究者が応募しやすい環境を確保する。

採用後は、研究支援・産官学連携センターに配置している URA により、外部資金獲得に関するサポート（公募情報提供、説明会開催、申請書作成支援等）等を行っている。

[テニュアトラック教員採用数（計画）]

	平成 26 (2014) 年度	平成 27 (2015) 年度	平成 28 (2016) 年度	平成 29 (2017) 年度	平成 30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和 2 (2020) 年度	令和 3 (2021) 年度
春着任		第 2 期	第 4 期	第 6 期	第 8 期	第 10 期	第 12 期	第 14 期
秋着任	第 1 期(冬)	第 3 期	第 5 期	第 7 期	第 9 期	第 11 期	第 13 期	第 15 期

徳島大学	0	1	1	1	1	1	1	1
コンソ全体	4	8	8	8	8	8	8	8

[テニュアトラック教員採用数（実績）]

	公募開始	公募締切	最終選考	採用日	応募分野	応募者数
第3期	平成27(2015)年 4月28日	平成27(2015)年 6月25日	平成27(2015)年 8月26日	平成28(2016)年 2月1日	家畜繁殖学	1
第4期	平成27(2015)年 10月13日	平成27(2015)年 12月28日	平成28(2016)年 2月29日	平成28(2016)年 4月1日	有機合成薬学	7(1)
第6期	平成28(2016)年 10月11日	平成28(2016)年 12月12日	平成29(2017)年 2月1日	平成29(2017)年 4月1日	メタボローム栄養学	1
第9期	平成29(2017)年 12月28日	平成30(2018)年 4月2日	平成30(2018)年 7月19日	平成30(2018)年 10月1日	ロボット工学	3(1)
第11期	平成31(2019)年 3月28日	令和元(2019)年 5月27日	令和元(2019)年 6月27日	令和元(2019)年 10月1日	次世代フォト ニクス研究	2(1)
第12期	令和元(2019)年 10月23日	令和元(2019)年 12月24日	令和2(2020)年 1月16日	令和2(2020)年 4月1日	創薬理論化学	1(1)

※( )は女性

### 10-3-3. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム

#### (1) 長期インターンシップ

平成26(2014)年度から、毎年2名の長期インターンシップ派遣を目標として事業を進めている。令和2(2020)年度についても、前年度までと同様に全学的に、第12期・第13期派遣者募集の準備をしていたが、コロナ禍のため、募集を見合わせた。

[長期インターンシップ派遣（計画）]

	平成26 (2014) 年度	平成27 (2015) 年度	平成28 (2016) 年度	平成29 (2017) 年度	平成30 (2018) 年度	令和元 (2019) 年度	令和2 (2020) 年度	令和3 (2021) 年度
前期		第2期	第4期	第6期	第8期	第10期	第12期	第14期
後期	第1期	第3期	第5期	第7期	第9期	第11期	第13期	第15期
徳島大学	2	2	2	2	2	2	2	2
コンソ全体	6	18	18	18	18	18	18	18

[長期インターンシップ派遣（実績）]

	所属	学年	派遣先	派遣期間
第1期	2名選考のみ			

第 2 期	先端技術科学教育部	D3	三菱レイヨン(株)・広島	平成 27(2015)年 9 月 3 日 ～12 月 3 日
第 3 期	先端技術科学教育部	D1	(株)インフォマティクス・大阪	平成 27(2015)年 11 月 9 日 ～平成 28(2016)年 1 月 9 日
第 4 期	先端技術科学教育部	D2	ニタコンサルタント(株)・徳島	平成 28(2016)年 6 月 10 日 ～8 月 9 日
第 5 期	栄養生命科学教育部	D1	理化学研究所・兵庫	平成 28(2016)年 10 月 1 日 ～12 月 31 日
第 7 期	薬科学教育部	D1	東京都医学総合研究所・東京	平成 30(2018)年 2 月 1 日 ～3 月 31 日
第 8 期	先端技術科学教育部	D3	理化学研究所・仙台地区	平成 30(2018)年 9 月 18 日 ～12 月 17 日
第 9 期	地方創生センター	助教	北欧研究所・デンマーク	平成 30(2018)年 12 月 29 日 ～平成 31(2019)年 3 月 29 日
第 10 期	先端技術科学教育部	D2	国立研究開発法人産業技術総合研究所つくばセンター	令和元(2019)8 月 20 日 ～令和元(2019)年 9 月 30 日
第 10 期	先端技術科学教育部	D1	株式会社ファーマフーズ	令和元(2019)9 月 9 日 ～令和元(2019)年 10 月 4 日
第 11 期	薬科学教育部	D1	日本テクノサービス株式会社	令和 2(2020)2 月 21 日 ～令和 2(2020)年 3 月 19 日
第 12 期・ 第 13 期	コロナ禍のため 募集見合わせ			

## (2) その他の活動

博士後期課程学生のコミュニケーション能力の向上を目的として、徳島大学の博士後期課程の学生も毎年秋に広島で開催される未来博士 3 分間コンペティションに参加している。令和 2(2020)年度は、コロナ禍のため、全国の博士課程後期学生を対象としたオンライン開催となり、徳島大学からは、動画審査を経た 10 名の 1 人として、1 名が準決勝（英語部門）に出場した。

また、昨年の未来博士 3 分間コンペティション英語部門の成績優秀者 1 名が、大会の推薦を受けて、クイーンズランド大学（オーストラリア）が開催する 3MT アジア太平洋大会 2020 Semi Final に出場した。

## (3) 特筆すべき活動

コンソーシアムの連携機関への新規加入を促進するため、広島大学とともに事業紹介の為の一般事業向けパンフレットを作成し、企業、機関への説明を積極的に行っている。令和 2（2020）年度は、本事業についての理解・関心を広めるべく、徳島ビジネスチャレンジメッセ 2020（徳島市、オンライン）にて、本事業の紹介を行った（右写真は、紹介動画画面）。



また、令和 2（2020）年度は、様々な分野の研究者または人事関係者等を講師に招聘し、会社概要や研究開発内容の紹介、研究者の業務、求める人材像等について講演いただく人材セミナーを 2 回開催した。

- ・ 第 111 回コンソーシアム人材セミナー in 徳島

「海外特別講演会」 Next Generation “Light” Research: Topological Photonics」

令和2(2020)年11月10日(内閣府地方大学・地域産業創生交付金事業, 徳島大学FD委員会と連携)

- ・第121回コンソーシアム人材セミナーin 徳島

「徳島大学キャリア支援セミナー2021 “ヘッドハンターが語るコロナ/ポストコロナ社会におけるキャリア選択”」

令和3(2021)年1月14日(AWAサポートセンター, キャリア支援室, 研究支援・産官学連携センターと連携)



併せて, 研究者としてのキャリアアップを目指す機会として, オンラインで次のセミナーを開催した。

- ・令和3年度科学研究費申請オンライン勉強会～科研費申請の理論と攻略～

令和2(2020)年8月24日(研究支援・産官学連携センターと連携)

- ・英語論文セミナー1, 2, 3

令和2(2020)年8月26日, 9月16日, 10月7日(AWAサポートセンター, 研究支援・産官学連携センターと連携)

- ・KAKENHI (Grants-in-Aid for Scientific Research) FY2021 Orientation in English

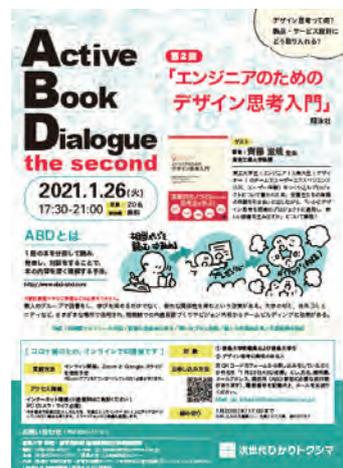
令和2(2020)年9月10日(研究支援・産官学連携センターと連携)

- ・Active Book Dialogue 第2回「エンジニアのためのデザイン思考入門」

令和3年1月26日(次世代ひかりトクシマ, 人と地域共創センター, 研究支援・産官学連携センター, 附属図書館と連携)

- ・研究倫理・コンプライアンス研修会

令和3(2021)年3月4日(研究支援・産官学連携センター, AWAサポセンターと連携)



## 11. 外部評価

### 11-1. 外部評価委員会

若手研究人材養成担当では、外部の関連組織・有識者の方に外部評価委員を委嘱し、本システムの外部評価を受けている。外部の方の意見を真摯に受け止め、より良い取組とするよう努めている。

平成 30（2018）年度で HIRAKU 事業の補助金が終了し、その後は独自経費で事業を継続している。独自経費での運営が 1 年間経過した令和 2（2020）年度に、5 回目の外部評価を受けた。

#### 11-1-1. 第 5 回外部評価委員会

【日 時】 令和 2（2020）年 12 月 10 日（木） 16：00～18：00

【場 所】 Zoom によるオンライン開催

##### ◆外部評価委員（五十音順）

三菱ケミカル株式会社 広島研究所 主席研究員	入江 菊枝
広島県商工労働局 総括官（イノベーション推進）	川野 真澄
近畿大学 次世代基盤技術研究所 特任教授	京極 秀樹
公益財団法人とくしま産業振興機構 理事長	熊谷 幸三
株式会社広島銀行法人営業部 シニアマネージャー	栗栖 徹
国立大学法人東京工業大学 荣誉教授	鈴木 啓介
地方独立行政法人山口県産業技術センター イノベーション推進センターバイオ関連推進チーム プロジェクトプロデューサー	中野 哲郎
経済産業省中国経済産業局 地域経済部 次長	森分 幸雄

##### 【総合講評】

本プログラムは、令和 2 年度までのほぼ 7 年間で、「イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム」および「テニユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム」とも着実に内容の充実を図られ、顕著な成果を上げられており、優れた次世代研究者教育プログラムに仕上げられてきていることに敬意を表する。とりわけ、令和元年度からは補助期間が終了したにも関わらず、企業からの資金調達やクラウドファンディング及び各大学から予算を捻出して運営されていること、加えてコロナ禍の難しい時期にも関わらず工夫を凝らして成果を挙げられている点は大いに評価できる。

前回の外部評価委員会での課題についても、真摯に向き合って改善が進められている。

まず、「イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム」においては、企業等への長期インターンシップ派遣先を増やす努力がなされているとともに、インターンシップ受入リストの作成や人材セミナー講師派遣による連携強化などが図られている。未来博士 3 分間コンペティションにおいても広報活動が強化されており、令和 2 年度にはオンラインによる全国展開を図るなどの努力がなされている。

次に、「テニユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム」においても、引き続き、メンター及び研究支援者による相談業務、ホームページや若手研究者ポータルサイトの作成など独自の取り組みが実施されている。テニユアトラック教員の採用についても、毎年ほぼ計画通りに採用が行われており、女性教員、外国人教員の採用、さらに採用後の評価・ケアシステムも着実に実施されており、その成果は顕著である。このような取り組みを、3 大学

が連携して着実に実施されていることは、大いに評価できる。このような実績が評価され、新たなプログラム「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」に繋がったものと思われる。

一方、これまでも課題として挙げられた地域企業との連携に関しては大いに努力されているが、さらなる企業目線に立った具体的取り組みを行って頂くことを願います。

本プログラムが今後とも発展し、継続していくためには、再度現状の課題を抽出して改善していくことが重要である。外部評価委員会として、以下の課題を挙げておくので、さらなる改善にご尽力頂きたい。

1. 本プログラムへの参画企業も大幅に増やす努力をされており改善がみられるが、企業目線での取り組みを実施することにより、企業との連携がより一層深まると思われる。長期インターンシップに関しては、中堅・中小企業にも優良企業は多く、大企業だけでなくこれらの優良企業にも目を向けて連携を図って頂きたい。このためには、コーディネーターの役割は非常に重要で、大学と企業とのさらなる連携強化に努めて頂きたい。これにより、支援の輪が広がり、金銭的支援も増えるものと思われる。
2. 企業との連携を強化するためには、例えば、未来博士3分間コンペティションを通じて企業への情報発信力を強化することにより、学生のパフォーマンスを見ることができることから、企業への採用につながる可能性が高くなる。HIRAKU-HPの“企業の方へ”の内容は、パンフレットが張り付けたままで、企業に向けてのメリットが見えない。企業が積極的に参画したいと思える取り組み内容として“見える化”して広報をすべきである。これらを改善することにより企業との連携を一層深めて頂きたい。
3. 本プロジェクトでテニュアトラックやインターンシップの人数が計画通り達成できたことは評価できるが、このプロジェクトの最終目標は育成した人材がどのような研究成果を残すかにある。その意味でアウトカムズとして特許数や論文数がプロジェクトの前後でどのように変化してきたか見る必要がある。これについても、“見える化”をして頂きたい。
4. 教育的視点からは、起業家精神を養う内容を増やすなど、さらに学生の選択肢を増やして、企業への就職やベンチャー企業の立ち上げなどへの意識を高めていく努力をして頂きたい。
5. 本プログラムを今後継続していくためには、補助金がない中で資金調達を行うことが必要であることから、大学間連携は非常に重要であり、引き続き継続していく必要があるとともに、上述したように、さらなる企業や行政機関との連携を密にする仕組みを構築して頂きたい。

以上の課題を検討して頂き、地方創生を推進する優れた人材育成プログラムを進化させて頂き、日本を代表するプログラムとなって、さらに継続されることを期します。

未来を拓く地方協奏プラットフォーム  
令和2(2020)年度 成果報告書

【発行年月】 令和 3(2021)年 3月

【編集・発行】「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」運営協議会事務局  
広島大学グローバルキャリアデザインセンター  
(若手研究人材養成担当)

【所在地】〒739-8514 東広島市鏡山一丁目7番1号(学生プラザ2F)

【TEL】082-424-2058 【FAX】082-424-4565

※無断複写・転載を禁じます







未来を拓く地方協奏プラットフォーム

**HIRAKU**

Home for Innovative Researchers and  
Academic Knowledge Users